

システム名	MSP
ソフトウェア 略称	DBSPV33MSP
適用 バージョン・レベル	V33L20
製品コード	A9316634-3320-1

ソフトウェア説明書

OSIV/MSP

SIMPLIA/TF-DBSP V33

ま え が き

本ソフトウェア説明書は、

S I M P L I A / T F - D B S P V 3 3

について説明したものです。ソフトウェアの使用に先立ち、本書をご一読ください。

本ソフトウェアのインストールを実施するにあたり、その2週間前までに当社技術員から本ソフトウェアの最新保守情報をお取り寄せのうえ、インストールを実施頂くようお願い致します。また、ご不明な点は当社の技術員にお問い合わせください。

なお、本書で用いる記号の意味は次のとおりです。

- ◆参照 → 本書中の参照箇所を示しています。
- ◆【】 “適用マニュアル”に記載されているマニュアルの参照箇所を示しています。
例：◆【1】 1.2 …… “適用マニュアル”第1項のマニュアルの1.2を参照。

2017年2月

富士通株式会社

Windows は、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

All Rights Reserved, Copyright © 富士通株式会社 1983-2017

目 次

1. 機能概要	1
2. 構成プログラム	3
3. 適用マニュアル	3
4. 新機能	4
5. 移行上の注意	6
6. ソフトウェア組合せ条件	1 3
7. 提供媒体形式と内容	1 4
8. DASD所要量	1 5
9. インストレーションの手引	1 6
10. プログラム修正事項	4 8
11. 制限事項	5 4

1. 機能概要

このソフトウェアは以下の機能を備えている。

詳細は、本書の“3. 適用マニュアル”に記載のマニュアルを参照する。

OSIV/MSP SIMPLIA/TF-DBSP (SIMple development & maintenance support Program Libraries for Application system/Testing Facility of Data Base Support Program) (以降DBSPと呼ぶ) は、テストデータの作成と検証を支援することを目的とし、ネットワークデータベースの創成、更新、印刷を行うアプリケーションプログラムである。

DBSPには以下の機能がある。

1.1 環境セットアップ機能 ◆【1】 2.1, 3.1

1.1.1 環境セットアップ ◆【1】 2.1.2, 3.1.3

AIM ADL (SCHEMA, SUBSCHEMA) ソースを解析し、更新系システムを作成する。

この時に、DBSP自体が動作するためのSUBSCHEMA とPED を自動創成しAIM ディレクトリに自動登録する。

1.1.2 ユーティリティ ◆【1】 2.1.3, 3.1.4

環境セットアップで指定したSCHEMAソースの中で定義されているデータベース、インデックスデータセットに対しAIM ユーティリティのJXHADINTまたはJXHIXGENを行うことができる。

割り当て処理では、割り当て容量を自動算出する。

1.1.3 COPY句環境セットアップ ◆【1】 2.1.4, 3.1.5

更新系システムにおいて、COBOL85 の登録集原文 (以降COPY句と呼ぶ) フォーマットでデータを画面表示する場合の環境を作成する。

1.1.4 YPS 構造体環境セットアップ ◆【1】 2.1.5, 3.1.6

更新系システムにおいて、YPS/COBOLで記述されたインクルード句 (以降YPS構造体と呼ぶ) フォーマットでデータを画面表示する場合の環境を作成する。

1.2 データベース更新・表示機能 ◆【1】 2.2, 3.2

1.2.1 レコードの更新 ◆【1】 2.2.2, 3.2.3

会話処理により、レコード内データの更新、レコードの追加・削除を容易に行うことができる。

1.2.2 セットの変更 ◆【1】 2.2.3, 3.2.4

会話処理により、レコード単位にセットの結合・切離し・つなぎ替えを容易に行うことができる。

1.2.3 レコードの印刷 ◆【1】 2.2.5, 3.2.6

会話処理により印刷するレコードの条件を指定する。指定できる条件は、セット内レコード印刷のメンバーレコードタイプ指定、エントリキーの範囲指定、検索条件式指定、物理的格納順番の範囲指定である。

印刷リストには、次の2種類のフォーマットがある。

－ 1 ページ 1 レコードで16進出力あり

－ 1 ページ 2 レコードで16進出力なし

1.2.4 レコードの一括更新 ◆【1】 2.2.4 , 3.2.5

DBSP専用の一括更新制御文を使用することにより、バッチ処理において、レコード内データの更新、レコードの追加・削除、セットの結合を行うことができる。

1.3 Web 連携機能

Web ブラウザからデータ抽出・表示を行うことができる。

2. 構成プログラム

このソフトウェアは、表2.1 に示すプログラムから構成されている。

表2.1 構成プログラム

項番	分類	プログラム名	バージョン・レベル	備考
1	環境セットアップ系システム メインプログラム	J S M D O M 0 1	V 3 3 L 2 0	
		J S M D O M A T	V 3 3 L 2 0	JSMDOM01を起動する
2	更新系システム メインプログラム	J S M D B M 0 1	V 3 3 L 2 0	環境生成時にコンパイル
		J S M D B M A T	V 3 3 L 2 0	JSMDBM01を起動する
3	端末種別取得プログラム	J S M D X 0 1 0	V 3 3 L 2 0	
4	画面消去プログラム	J S M D Z F E D	V 3 3 L 2 0	
5	プロフィール取得プログラム	J S M D P R F 0	V 3 3 L 2 0	
6	プロジェクト管理情報 コンバートプログラム	J S M D U 6 5 0	V 3 3 L 2 0	
7	プロジェクト削除プログラム	J S M D U 6 4 0	V 3 3 L 2 0	
8	Web 連携機能 メインプログラム	J S M D W M 0 1	V 3 3 L 2 0	Web 連携機能の 環境生成時にコンパイル
		J S M D W M A T	V 3 3 L 2 0	JSMDWM01を起動する

3. 適用マニュアル

このソフトウェアに適用されるマニュアルは表3.1 に示すとおりである。

表3.1 適用マニュアル

項番	マニュアル名称	マニュアルコード	備考
1	OSIV SIMPLIA/TF-DBSP 解説書	J1M0-9090-03	

4. 新機能

このソフトウェアでは、以前のバージョン・レベルに対して次のような機能追加および改良が行われている。

4.1 V 3 0 L 2 4 で行われた機能追加・改良点

4.1.1 COBOL85 V12L20対応

COBOL85 V12L20のCOPY句の使用を可能とした。

4.1.2 COPY句フォーマットアナライズテーブルのコンバート機能

COPY句フォーマットアナライズテーブルのコンバート用プログラムを追加した。

4.2 V 3 1 L 1 0 で行われた機能追加・改良点

4.2.1 YPS 構造体の指定によるデータの作成／更新／印刷機能

YPS 構造体のフォーマットによるデータの作成／更新／印刷の機能を追加した。

4.2.2 AIM ディレクトリデータセットのカタログについての制限緩和

AIM ディレクトリデータセットはカタログされていなくてもよいように制限緩和した。

4.2.3 COPY句ライブラリのカタログについての制限緩和

COPY句環境生成時に、COPY句ライブラリはカタログされていなくてもよいように制限緩和した。

4.2.4 検索条件の値

検索条件入力画面において、指定された値が絶対値でなくてもよいように制限緩和した。

4.3 V 3 1 L 2 0 で行われた機能追加・改良点

4.3.1 ユーザ出口機能

レコードの更新前後のログをユーザが取得可能なように、ユーザ出口の機能を追加した。

4.3.2 ユーザサポートのためのV/L 通知ルーチン

DBSPの製品情報を通知するV/L 通知ルーチンを提供した。通知情報は、ツール名、V/L、修正No、修正日付、修正時刻、実行ユーザ、実行日付、および実行時間である。

4.3.3 DBSPの環境セットアップ用ADL 情報の項目追加

DBSPの環境セットアップ用ADL 情報に、BOF スペース量を指定可能とした。

4.3.4 DBSP起動時の初期値指定

日本語データを扱うユーザが増えたため、DBSP起動時はJEF ONが初期値になるよう改善した。

4.3.5 容量の自動算出

ユーティリティにより最新機種(F6427) の対応を行い、最新機種でも容量の自動算出を可能とした。

4.3.6 データ項目名の長さ

画面およびバッチの検索用に使用するデータ項目名の長さを、日本語データ項目名長最大までサポートした。

4.4 V 3 1 L 2 1 で行われた機能追加・改良点

4.4.1 一括更新処理でのDATATOOL連携機能

一括更新処理でのDATATOOL連携機能を追加し、一括更新処理における四則演算および条件付き命令をサポートした。

4.5 V 3 2 L 1 0 で行われた機能追加・改良点

4.5.1 ユーザランダムエントリ手法のレコード検索に対する制限解除

ユーザランダムエントリ手法のレコードに対するエントリキー指定での検索は、ユーザランダムエントリキー指定のみをサポートしていたが、拡張インデックス指定もサポートした。

4.5.2 翻訳オプションの指定

DBSPマスタファイルの@OPTION および@YPSCOPTにて指定する翻訳オプションに、標準値以外の指定を可能とした。

4.5.3 DBSPマスタファイルの一括修正機能

DBSPマスタファイルをインストール後、一括して修正する機能を追加した。

4.5.4 プロジェクトファイルコンバート機能

移行時にプロジェクトごとのマスタファイルをコンバートする機能を追加した。（コンバート後は再環境セットアップが必要）

4.5.5 プロジェクト削除機能

不要プロジェクトの環境を削除する機能を追加した。

4.5.6 ワークファイルのボリューム通し番号指定

ログ出力用と、レコードの印刷用のワークファイルのボリューム通し番号を、任意に指定可能とした。

4.5.7 AIM ディレクトリのUNIT指定

AIM ディレクトリの存在するUNITが、その他の環境ファイルと別のUNITであっても処理可能となるよう制限緩和した。

4.5.8 アイテムセレクト情報の保存

データベース更新・表示処理でアイテムセレクト（項目選択）を行った場合、セッション中はその情報をクリアせずに、再検索の際にアイテムセレクトを表示するようにした。

4.5.9 プロジェクト登録数制限値の緩和（50→999）

プロジェクト登録数の制限値を、最大50件から 999件に緩和した。

4.5.10 マルチクラスタ環境における運用

OS IV/MSP スケーラブルSCMPシステムにおけるマルチクラスタの運用を可能とした。

4.6 V 3 3 L 1 0 で行われた機能追加・改良点

4.6.1 プロジェクト管理情報コンバート機能

V30L24以降からの移行時には、旧V/L のプロジェクト管理情報をコンバートすることで、各プロジェクト環境をそのまま使用可能とした。これに伴い、V32L10で追加したプロジェクトファイルコンバート機能（◆参照 → 4.5.4）は不要となったため廃止した。

4.6.2 Web 連携機能

Web ブラウザからのデータ抽出・表示を可能とした。

4.7 V 3 3 L 2 0 で行われた機能追加・改良点

4.7.1 処理制御用コマンドの追加

TRANコマンドによってトランザクションを区切ることを可能とした。

4.7.2 画面スクロールの行数指定

行数単位の画面スクロールを可能とした（ユーティリティを除く）。

4.7.3 ユーザ出口のレコード内容長制限緩和

ユーザ出口に通知されるレコード内容長の制限を最大27000 バイトから32632 バイトに緩和した。

5. 移行上の注意

以前のバージョン・レベルからこのソフトウェアに移るときには、以下の事項に留意しなければならない。

5.1 システム移行を伴う場合

旧V/L のDBSP環境は流用できない。

以下に示す手順でインストールを行う。

- (1) 旧V/L のDBSP環境を全て削除する。 ◆参照 → 5.6
- (2) DBSPのインストールを行う。 ◆参照 → 9

また、システム移行が伴うDBSPの移行においては、次の注意事項がある。

- ー DBSPの必要ソフトウェアであるADJUSTは、動的結合用のトランジェントライブラリを指定しなければならない。静的結合用のレジデントライブラリを指定するとOC4-000 で異常終了する場合がある。

トランジェントライブラリ、レジデントライブラリの詳細は、ADJUSTのソフトウェア説明書を参照されたい。

5.2 AIM 環境のV/L 移行を伴う場合 (AIM V11 からAIM V12,V20 または AIM V12からAIM V20)

旧V/L のDBSP環境は流用できない。

以下に示す手順でインストールを行う。

- (1) 旧V/L のDBSP環境を全て削除する。 ◆参照 → 5.6
- (2) DBSPのインストールを行う。 ◆参照 → 9

5.3 DBSP V30L20 以前からの移行

旧V/L のDBSP環境は流用できない。

以下に示す手順でインストールを行う。

- (1) 旧V/L のDBSP環境を全て削除する。 ◆参照 → 5.6
- (2) DBSPのインストールを行う。 ◆参照 → 9

5.4 DBSP V30L21 ~ V30L23 からの移行

旧V/L のDBSP環境のうちプロジェクトのCOPY句環境は、移行作業を行うことで流用できる。

5.4.1 プロジェクトのCOPY句環境を流用する場合

以下に示す手順でインストールを行う。

- (1) 旧V/L のDBSP環境を削除する。 ◆参照 → 5.6
ただし、COPY句環境の移行作業に必要な環境は削除しない。
- (2) DBSPのインストールを行う。 ◆参照 → 9
- (3) 旧V/L のCOPY句環境の移行作業を行う。 ◆参照 → 5.7

5.4.2 プロジェクトのCOPY句環境を流用しない場合

以下に示す手順でインストールを行う。

- (1) 旧V/L のDBSP環境を全て削除する。 ◆参照 → 5.6
- (2) DBSPのインストールを行う。 ◆参照 → 9

5.5 DBSP V30L24 ~ V33L10 からの移行

旧V/L のDBSP環境のうちプロジェクト環境は、移行作業を行うことで流用できる。

5.5.1 プロジェクト環境を流用する場合

以下に示す手順でインストールを行う。

- (1) 旧V/L のDBSP環境を削除する。 ◆参照 → 5.6

ただし、プロジェクト環境の移行作業に必要な環境は削除しない。

- (2) 移行作業に使用する旧V/L のDBSP環境を改名する。 ◆参照 → 5.8.1

- (3) DBSPのインストールを行う。 ◆参照 → 9

ただし、旧V/L のDBSP環境と同じ名前でインストールを行うこと。

また、作成するメッセージファイルも旧V/L と同じ名前にすること。

- (4) 旧V/L のプロジェクト環境の移行作業を行う。 ◆参照 → 5.8.2

5.5.2 プロジェクト環境を流用しない場合

以下に示す手順でインストールを行う。

- (1) 旧V/L のDBSP環境を全て削除する。 ◆参照 → 5.6

- (2) DBSPのインストールを行う。 ◆参照 → 9

5.6 削除するデータセット

旧V/L のDBSP環境を全て削除する場合には、表5.1 および表5.2 に示すデータセットを全て削除する。

以下に示す移行を行う場合が該当する。

- － システム移行を伴う場合
- － AIM 環境のV/L 移行を伴う場合
- － DBSP V30L20 以前からの移行
- － DBSP V30L21 ～ V30L23 からの移行で、プロジェクトのCOPY句環境を流用しない場合
- － DBSP V30L24 ～ V33L10 からの移行で、プロジェクト環境を流用しない場合

旧V/L のDBSP環境を流用する場合には、移行作業に必要なデータセット以外を削除する。

以下に示す移行を行う場合が該当する。

- － DBSP V30L21 ～ V30L23 からの移行で、プロジェクトのCOPY句環境を流用する場合

表5.1 に示すデータセットは全て削除する。

表5.2 に示すデータセットは以下に示すデータセット以外を削除する。

a) 項番1 のデータセット

b) 項番2 のデータセットのうち、プロジェクト名.DBSP.COPY環境識別名

- － DBSP V30L24 ～ V33L10 からの移行で、プロジェクト環境を流用する場合

表5.1 に示すデータセットは項番1, 2以外を削除する。

表5.2 に示すデータセットは削除しない。

表5.1 削除対象となるデータセット名一覧（標準提供）

項番	データセット名	内 容	備 考
1	DBSP. LOAD	ロードモジュール	
2	DBSP. MASTER	DBSPマスタファイル	
3	DBSP. ANMENU	メニュー定義体(A/N)	
4	DBSP. JEFMENU	メニュー定義体(JEF)	
5	DBSP. ANMSG	PSメッセージファイル(A/N)	
6	DBSP. ANMSG. ISAM または VSAM	ISAMまたはVSAMメッセージファイル(A/N)	PSメッセージファイル(A/N) を ISAMまたはVSAMに変換
7	DBSP. JEFMSG	PSメッセージファイル(JEF)	
8	DBSP. JEFMSG. ISAM または VSAM	ISAMまたはVSAMメッセージファイル(JEF)	PSメッセージファイル(JEF) を ISAMまたはVSAMに変換
9	DBSP. COPY	COPY句ライブラリ	
10	DBSP. MASTWEB	Web 連携用DBSPマスタファイル	

【注意事項】

a) 項番3, 4, 5, 6, 7, 8 はバージョン・レベルにより命名が異なっている。

標準提供されたデータセット名は、旧V/L のソフトウェア説明書やインストールの担当者に確認する。

b) 項番5, 7 のPSメッセージファイルは、項番6, 8 のISAMまたはVSAMメッセージファイルに変換後は不要となるため、すでに削除されている場合もある。

c) 項番9 のCOPY句ライブラリは、V20L22以前のバージョン・レベルでのみ存在する。

d) 項番10のWeb 連携用DBSPマスタファイルは、V33L10以降でWeb 連携機能を使用している場合に存在する。

表5.2 削除対象となるデータセット名一覧（環境セットアップ後に生成される）

項番	データセット名	内 容	備 考
1	プロジェクト名.MASTER.DATA	プロジェクトごとのマスタファイル	
2	プロジェクト名.DBSP. XXXXXXXX	各種の管理ファイル	XXXXXXXXは、ADLCNTL, DBFMTTBL, DBACSTBL, DBUTYL1B, RACVTTBL, 環境識別名などがある。
3	プロジェクト名.DBSPVXX.LOAD	更新系システムメインロードモジュール	XXはV/L により異なる数字である。V30L21以降は31となっている。
4	ユーザID.DBSP. XXXXXXXX	各種ワークファイル	
5	プロジェクト名.MASTER.DATAWEB	プロジェクトごとのWeb 連携用マスタファイル	
6	プロジェクト名.DBSP.LOADWEB	Web 連携用メインロードモジュール	
7	ユーザID.WK.DBSP. XXXXXXXX	Web 連携用の各種ワークファイル	
8	ユーザID.DBS. Lyymmdd. Thhmm	Web 連携用のログファイル	yymmddは年月日, hhmmは時分

【注意事項】

- a) 項番1 ～3, 5, 6 がプロジェクト環境である。
- b) 項番2 において、XXXXXXXXが環境識別名のデータセットが、COPY句, YPS 構造体環境である。
- c) 項番2 ～4, 7, 8 に示すデータセット名は、LISTCAT コマンド, またはVTOC情報により確認する。
- d) 項番5 ～8 のデータセットは、V33L10以降でWeb 連携機能を使用している場合に存在する。

5.7 DBSP V30L21 ~ V30L23 からの移行：旧V/L のCOPY句環境の移行作業

5.7.1 COPY句環境の移行手順

DBSPのインストール完了後に、COPY句環境を流用する各プロジェクトに対して、以下に示す(1)~(5)の作業を行う。

(1) COPY句環境情報の退避

旧V/L のプロジェクト名.MASTER.DATAのメンバのうち、@COPY および名称がCOPY環境識別名のものを退避する。

(2) プロジェクトの再環境セットアップ

旧V/L のプロジェクト名.MASTER.DATAを削除し、再環境セットアップを行う。

ただし、以下に示す項目は旧V/L と同じにすること。

- － プロジェクト名
- － 選択するスキーマ

(3) COPY句環境情報の復元

退避していたメンバ：@COPY および名称がCOPY環境識別名のものを、(2)の再環境セットアップで作成されたプロジェクト名.MASTER.DATAに複写（置換）する。

(4) COPY句環境のコンバート

COPY句フォーマットアナライズテーブルファイル（注1）のコンバートプログラムを使用して、旧V/L のCOPY句環境をコンバートする。

コンバートプログラムのジョブ制御文は、DBSPマスタファイルの@CVTOL24（◆参照 → 9.5(1)）で提供している。

コンバート時には、旧V/L のCOPY句環境が別名で退避される。（注2）

COPY句環境が複数存在する場合は、COPY句環境ごとにコンバートプログラムを実行する必要がある。

注1）COPY句フォーマットアナライズテーブルファイル：プロジェクト名.DBSP.COPY環境識別名

注2）プロジェクト名.DBSP.COPY環境識別名 → プロジェクト名.DBSP.COPY環境識別名.OLD

(5) 移行作業で使った旧V/L のCOPY句環境の削除

コンバートが正常に終了した場合には、退避されている旧V/L のCOPY句環境を削除する。

5.8 DBSP V30L24 ~ V33L10 からの移行：旧V/L のプロジェクト環境の移行作業

5.8.1 移行作業に使用する旧V/L のDBSP環境の改名

旧V/L のDBSP環境のデータセット名を改名する。

- DBSPロードモジュール (データセット名：DBSP. LOAD)
- DBSPマスタファイル (データセット名：DBSP. MASTER)

改名例： (改名前) (改名後)

DBSP. LOAD	→	DBSP. LOAD. OLD
DBSP. MASTER	→	DBSP. MASTER. OLD

5.8.2 プロジェクト環境の移行手順

DBSPのインストール完了後に、以下に示す(1)~(2)の作業を行う。

(1) プロジェクト管理情報のコンバート

5.8.1 項で改名した旧V/L のDBSPマスタファイルからプロジェクト管理情報(注)を、コンバートプログラムを使用して、新たにインストールしたDBSPマスタファイルにコンバートする。

コンバートプログラムのジョブ制御文は、DBSPマスタファイルの@CONVERT (◆参照 → 9.5 (18)) で提供している。

注) プロジェクト管理情報：DBSPマスタファイルの@PROJECT

(2) 移行作業で使った旧V/L のDBSP環境の削除

コンバートが正常に終了した場合には、改名した旧V/L のDBSP環境を削除する。

【プロジェクト環境の移行を行った場合の注意事項】

- V30L24からの移行

(a) プロジェクト名.MASTER. DATA (DBUPDATE) のWRITE 文にV/L 情報が存在する。

したがって、DBUPDATE起動時にはWRITE 文の旧V/L が画面に出力される。

ただし、更新・表示のメニュー画面には実際に動作しているV/L が表示される。

DBUPDATEのWRITE 文のV/L 情報はDBSPの機能には影響しないため、必要に応じて修正する。

(b) 以下に示す機能を使用するためには、プロジェクトの再環境セットアップを行う必要がある。

- ・ YPS 構造体の環境セットアップ (V31L10で機能追加) ◆参照 → 4.2.1
- ・ 一括更新処理 (V31L21でDATATOOL連携をサポート) ◆参照 → 4.4.1

ただし、一括更新処理はプロジェクト名.MASTER. DATAのDBCREATEを修正することで、再環境セットアップを行わずに使用できる。

DBCREATEの修正方法を以下に示す。

- ① リージョンサイズに3072K 以上を指定
- ② 実行パラメタの変更：'X*F*X' → 'X*F*プロジェクト名'
- ③ DD文を追加：JSMYLO01 DD SYSOUT=*
- ④ JOBLIBにDATATOOLのロードモジュールを追加 (DATATOOL連携を行う場合)

修正例：下線が修正箇所

```
      .  
//JOB LIB DD DSN=PRJ001.DBSPV31.LOAD,DISP=SHR  
//       DD DSN=DATATOOL.LOAD,DISP=SHR  
      .  
//DBCREATE EXEC PGM=JSMDBM01,REGION=3072K,  
//       PARM='X*F*PRJ001'  
      .  
//SYSOUT DD SYSOUT=*  
//JSMYLO01 DD SYSOUT=*  
//
```

－ V31L10からの移行

(a) プロジェクト名.MASTER.DATA(DBUPDATE)のWRITE 文にV/L 情報が存在する。

したがって、DBUPDATE起動時にはWRITE 文の旧V/L が画面に出力される。

ただし、更新・表示のメニュー画面には実際に動作しているV/L が表示される。

DBUPDATEのWRITE 文のV/L 情報はDBSPの機能には影響しないため、必要に応じて修正する。

(b) 以下に示す機能を使用するためには、プロジェクトの再環境セットアップを行う必要がある。

- ・ 一括更新処理 (V31L21でDATATOOL連携をサポート) ◆参照 → 4.4.1

ただし、一括更新処理はプロジェクト名.MASTER.DATAのDBCREATEを修正することで、再環境セットアップを行わずに使用できる。

DBCREATEの修正方法は、“V30L24からの移行”を参照されたい。

(c) YPS 構造体の環境セットアップにおいて、エラーが発生した場合には、不要な環境ファイルを削除するように修正されている。この修正を適用する場合、以下のどちらかを行う。

- ・ 再環境セットアップ
- ・ DBSPマスタファイルの@JCL4 をプロジェクト名.MASTER.DATAに上書き複写

－ V31L20～V33L10からの移行

(a) YPS 構造体の環境セットアップにおいて、エラーが発生した場合には、不要な環境ファイルを削除するように修正されている。この修正を適用する場合、以下のどちらかを行う。

- ・ 再環境セットアップ
- ・ DBSPマスタファイルの@JCL4 をプロジェクト名.MASTER.DATAに上書き複写

6. ソフトウェア組合せ条件

このソフトウェアを使用するときに必要な関連ソフトウェアは以下のとおりである。

表6.1 ソフトウェア組合せ条件

ソフトウェア名	適用V/L	必要条件		備考
		必須	オプション	
AF11	10/10以降	○		
AIM/DB	12/30, 20/10以降	○		
COBOL85	12/10以降	○		
IPF	10/21以降	○		緊急修正No.AL27945が吸収されていること
ソートマージ	10/30以降	○		
GEM	10/30以降		○	ADLソースライブラリ, COPY句ライブラリ またはYPSインクルード仕様書がGEMの場合
ADJUST	10/50以降		○	日本語を使用する場合 V10L50使用時はPTF L89061以降にする (DATATOOL連携時は必須)
YPS/COBOL	11/10以降		○	YPS構造体環境セットアップを行う場合
PF0	10/30以降		○	
JEF 基本辞書	01/92以降		○	日本語使用時 (DATATOOL連携時は必須)
SIMPLIA/TF-DATATOOL	22/10以降		○	一括更新処理のDATATOOL連携を使用する 場合

[補足事項]

Web 連携機能を使用する場合の必要関連ソフトウェアについては、CD-ROM内に格納されているソフトウェア説明書の“ソフトウェア組合せ条件”を参照されたい。

7. 提供媒体形式と内容

このソフトウェアで提供される媒体の内容は、表7.1 から表7.2 に示すとおりである。

また、Windows 上で使用するWeb 連携機能はCD-ROMで提供する。

Web 連携機能の提供媒体内容については、CD-ROMに格納されているソフトウェア説明書の“製品構成”を参照されたい。

表7.1 提供媒体形式

ラベル形式	ボリューム通し番号	データセット数	巻数
SL	DBSP33	10	1

表7.2 提供媒体内容

格納 順番	データセット名	内 容
1	DBSP.MASTERA	DBSPマスタファイル (AIM V12 用)
2	DBSP.LOAD	ロードモジュール
3	DBSP.ANMENU	メニュー定義体(A/N)
4	DBSP.JEFMENU	メニュー定義体(JEF)
5	DBSP.ANMSG	PSメッセージファイル(A/N)
6	DBSP.JEFMSG	PSメッセージファイル(JEF)
7	DBSP.MASTER	DBSPマスタファイル (AIM V20 用)
8	DBSP.MASTWEB A	Web 連携用DBSPマスタファイル (AIM V12 用)
9	DBSP.MASTWEB	Web 連携用DBSPマスタファイル (AIM V20 用)
10	DBSP.LOAD2	ロードモジュール2

【注意事項】

- a) 格納順番1 はAIM V12 環境でDBSPを使用する場合
- b) 格納順番7 はAIM V20 環境でDBSPを使用する場合
- c) 格納順番8 はWeb 連携機能をAIM V12 環境で使用する場合
- d) 格納順番9 はWeb 連携機能をAIM V20 環境で使用する場合
- e) 格納順番10はユーザ出口のレコード内容長を32632 バイトにする場合

8. DASD所要量

このソフトウェアのインストールを完了したときのDASD所要量の見積りは表8.1 に示すとおりである。

表8.1 DASD所要量

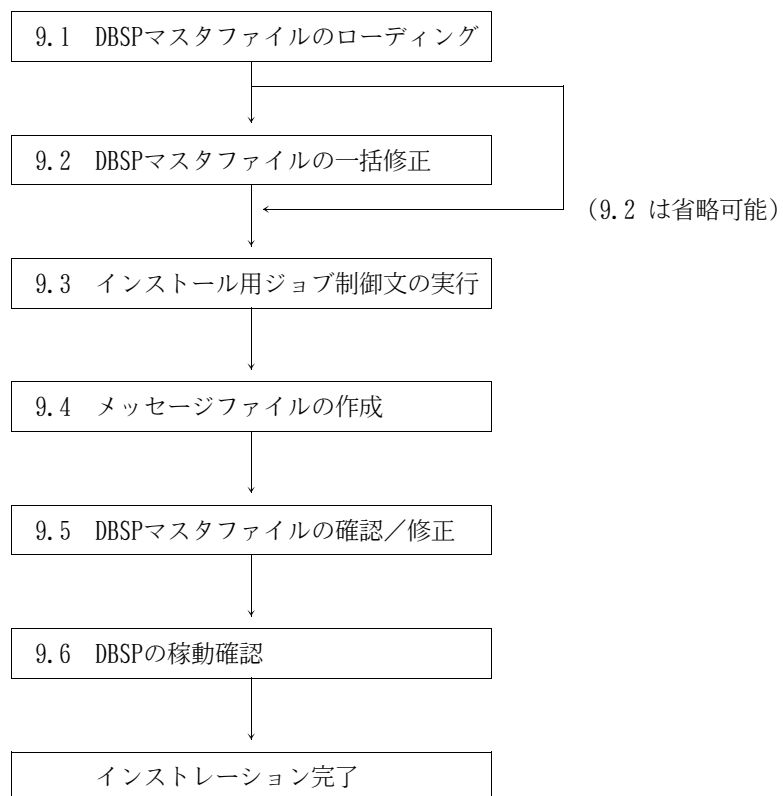
単位は各々次のとおり
 レコード長, ブロック長: バイト
 ディレクトリ: ブロック
 DASD所要量: トラックまたはシリンダ (単位省略部分はトラック)

項 番	データセット名		データセット形式 レコード形式 レコード長 ブロック長	算 出 式			備 考
	標準名	変更 可否		ディレ クトリ	DASD所要量		
					F6421	F6425	
1	DBSP. MASTER	可	区分編成 FB 80 3120	20	75	50	更新が頻繁におこなわれるため 実際の使用量よりも大きめに割 り当てを行う。 AIM V12 用, AIM V20 用共通
2	DBSP. LOAD	可	区分編成 U — 6144	45	150	100	
3	DBSP. ANMENU	可	区分編成 FB 255 2550	10	75	50	
4	DBSP. JEFMENU	可	区分編成 FB 255 2550	10	75	50	
5	DBSP. ANMSG	可	順編成 FB 160 3200	—	2	1	ISAMまたはVSAMのメッセージフ ァイル作成後は不要。
6	DBSP. JEFMSG	可	順編成 FB 160 3200	—	2	1	ISAMまたはVSAMのメッセージフ ァイル作成後は不要。
7	DBSP. ANMSG. ISAMまたはVSAM	可	ISAMまたはVSAM FB 160 3200	—	1 CYL	1 CYL	メッセージファイル作成ジョブ で作成する。
				—	1	1	上段: ISAM 下段: VSAM
8	DBSP. JEFMSG. ISAMまたはVSAM	可	ISAMまたはVSAM FB 160 3200	—	1 CYL	1 CYL	メッセージファイル作成ジョブ で作成する。
				—	1	1	上段: ISAM 下段: VSAM
9	DBSP. MASTWEB	可	区分編成 FB 80 3120	5	8	5	Web 連携機能を使用する場合 AIM V12 用, AIM V20 用共通

9. インストレーションの手引

このソフトウェアをインストールするための手順を説明する。

インストール手順は以下のフローどおり実施する。数字は、以降に示す章・節を表す。



9.1 DBSPマスタファイルのローディング

9.1.1 DBSPマスタファイル

9.1.1.1 磁気テープ媒体からのローディング

図9.1 に示す磁気テープ媒体のDBSPマスタファイルローディング用ジョブ制御文を作成し、最初にDBSPマスタファイル(DBSP.MASTER)のみをローディングする。

下線部は修正箇所である。修正箇所の内容を以下に示す。

- ① DBSPマスタファイル
 - ② DBSPマスタファイルを割り当てるボリューム通し番号と容量など
- 注) AIM V12 環境の場合：ラベルQ1のDBSPマスタファイル(DBSP.MASTERA)
AIM V20 環境の場合：ラベルQ7のDBSPマスタファイル(DBSP.MASTER)

```
//U00600A JOB , CLASS=H, MSGCLASS=R, NOTIFY=U00600 _____JOB 文
//***** DBSP.MASTER INSTALL *****
//STEP01 EXEC PGM=JSECOPI
//SYSUT1 DD UNIT=MT, DSN=DBSP.MASTER, LABEL=(07, SL), _____(注)
//          VOL=SER=DBSP33, DISP=(OLD, PASS)
//SYSUT2 DD DSN=DBSP.MASTER, DISP=(NEW, CATLG, DELETE), _____①
//          VOL=SER=USR710, SPACE=(TRK, (50, 10, 20)), UNIT=SYSDA _____②
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
//
```

図9.1 磁気テープ媒体のDBSPマスタファイルローディング用ジョブ制御文例

9.1.1.2 DVD 媒体からのローディング

図9.2 に示すDVD 媒体のDBSPマスタファイルローディング用ジョブ制御文を作成し、最初にDBSPマスタファイル(DBSP.MASTER)のみをローディングする。

下線部は修正箇所である。修正箇所の内容を以下に示す。

- ① DBSPマスタファイル
 - ② DBSPマスタファイルを割り当てるボリューム通し番号と容量など
- 注) AIM V12 環境の場合：DBSPマスタファイル(DBSP.MASTERA)
AIM V20 環境の場合：DBSPマスタファイル(DBSP.MASTER)

```
//U00600A JOB , CLASS=H, MSGCLASS=R, NOTIFY=U00600 _____JOB 文
//***** DBSP.MASTER INSTALL *****
//STEP01 EXEC PGM=JSECOPI
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA, DSN=DBSP.MASTER, _____(注)
//          VOL=SER=DVDVOL, DISP=OLD
//SYSUT2 DD DSN=DBSP.MASTER, DISP=(NEW, CATLG, DELETE), _____①
//          VOL=SER=USR710, SPACE=(TRK, (50, 10, 20)), UNIT=SYSDA _____②
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
//
```

図9.2 DVD 媒体のDBSPマスタファイルローディング用ジョブ制御文例

【注意事項】

DVD 媒体の内容はDASDに転送されていることが前提である。DVD 媒体からDASDへの転送については、DVD 適用手順書を参照されたい。

9.1.2 Web 連携用DBSPマスタファイル (Web 連携機能を使用する場合)

9.1.2.1 磁気テープ媒体からのローディング

図9.3 に示す磁気テープ媒体のWeb 連携用DBSPマスタファイルローディング用ジョブ制御文を作成し、Web 連携用DBSPマスタファイル (DBSP.MASTWEB) をローディングする。

Web 連携用DBSPマスタファイルのローディング後に行う修正作業などは、CD-ROM内に格納されているオンラインマニュアルの「Web 連携用環境セットアップ」を参照されたい。

下線部は修正箇所である。修正箇所の内容を以下に示す。

- ① Web 連携用DBSPマスタファイル
 - ② Web 連携用DBSPマスタファイルを割り当てるボリューム通し番号と容量など
- 注) AIM V12 環境の場合：ラベル08のWeb 連携用DBSPマスタファイル (DBSP.MASTWEB)
- AIM V20 環境の場合：ラベル09のWeb 連携用DBSPマスタファイル (DBSP.MASTWEB)

```
//U00600A JOB , CLASS=H, MSGCLASS=R, NOTIFY=U00600 _____JOB 文
//***** DBSP.MASTWEB INSTALL *****
//STEP01 EXEC PGM=JSECOPI
//SYSUT1 DD UNIT=MT, DSN=DBSP.MASTWEB, LABEL=(09, SL), _____ (注)
// VOL=SER=DBSP33, DISP=(OLD, PASS)
//SYSUT2 DD DSN=DBSP.MASTWEB, DISP=(NEW, CATLG, DELETE), _____①
// VOL=SER=USR710, SPACE=(TRK, (5, 2, 5)), UNIT=SYSDA _____②
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
//
```

図9.3 磁気テープ媒体のWeb 連携用DBSPマスタファイルローディング用ジョブ制御文例

9.1.2.2 DVD 媒体からのローディング

図9.4 に示すDVD 媒体のWeb 連携用DBSPマスタファイルローディング用ジョブ制御文を作成し、Web 連携用DBSPマスタファイル (DBSP.MASTWEB) をローディングする。

Web 連携用DBSPマスタファイルのローディング後に行う修正作業などは、CD-ROM内に格納されているオンラインマニュアルの「Web 連携用環境セットアップ」を参照されたい。

下線部は修正箇所である。修正箇所の内容を以下に示す。

- ① Web 連携用DBSPマスタファイル
 - ② Web 連携用DBSPマスタファイルを割り当てるボリューム通し番号と容量など
- 注) AIM V12 環境の場合：Web 連携用DBSPマスタファイル (DBSP.MASTWEB)
- AIM V20 環境の場合：Web 連携用DBSPマスタファイル (DBSP.MASTWEB)

```
//U00600A JOB , CLASS=H, MSGCLASS=R, NOTIFY=U00600 _____JOB 文
//***** DBSP.MASTWEB INSTALL *****
//STEP01 EXEC PGM=JSECOPI
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA, DSN=DBSP.MASTWEB, _____ (注)
// VOL=SER=DVDVOL, DISP=OLD
//SYSUT2 DD DSN=DBSP.MASTWEB, DISP=(NEW, CATLG, DELETE), _____①
// VOL=SER=USR710, SPACE=(TRK, (5, 2, 5)), UNIT=SYSDA _____②
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
//
```

図9.4 DVD 媒体のWeb 連携用DBSPマスタファイルローディング用ジョブ制御文例

【注意事項】

DVD 媒体の内容はDASDに転送されていることが前提である。DVD 媒体からDASDへの転送については、DVD 適用手順書を参照されたい。

9.2 DBSPマスタファイルの一括修正

DBSPマスタファイルに存在するジョブ制御文、コマンドプロシジャなど、利用者が内容を変更しなければならぬメンバをTSS のEDIT機能によって一括修正する。 ◆参照 → 9.3, 9.4, 9.5

なお、一括修正を省略し、“9.3 インストール用ジョブ制御文の実行”より実施することも可能である。

DBSPマスタファイルの一括修正を行う場合は、DBSPマスタファイルのメンバ：@CHGALL1および@CHGALL2を以下の手順で実行する。

- (1) @CHGALL1の修正、保存、実行（注）
- (2) @CHGALL2の修正（@CHGALL1による修正の確認を含む）、保存、実行（注）

注）@CHGALL1、@CHGALL2および一括修正対象の各メンバを同一データセットで提供しているため、@CHGALL1または@CHGALL2の修正、保存後はDBSPマスタファイルの使用をいったん終了し、コマンドラインまたはREADY 状態から実行する。（DBSPマスタファイルの@CHGALL1または@CHGALL2から直接実行すると、データセット使用中となり変換後の保存ができない。）

9.2.1 ジョブ制御文（@CHGALL1）の修正

図9.5 に示すジョブ制御文（@CHGALL1）を修正する。

図9.5 の下線部および括弧付き数字は修正箇所であり、括弧付き数字は説明の番号に対応する。また、JOB文を利用者の環境に合わせて修正する。

なお、利用者側で置換不要と判断する文字列がある場合は該当のCHANGEコマンドを削除する。

- (1) DBSPマスタファイル
- (2) DBSPで使用するデータセットのボリューム通し番号
- (3) DBSPのロードモジュール
- (4) メニュー定義体(A/N)
- (5) メニュー定義体(JEF)
- (6) PSメッセージファイル(A/N)
- (7) PSメッセージファイル(JEF)
- (8) COBOL85 ライブラリ（注）
- (9) 9.4 項で作成するISAMメッセージファイル(A/N)
- (10) 9.4 項で作成するISAMメッセージファイル(JEF)
- (11) ユーザカタログ（マスタカタログで管理する場合は不要）
- (12) 9.4 項で作成するVSAMメッセージファイル(A/N)
- (13) 9.4 項で作成するVSAMメッセージファイル(A/N) のデータ部
- (14) 9.4 項で作成するVSAMメッセージファイル(A/N) のインデックス部
- (15) 9.4 項で作成するVSAMメッセージファイル(JEF)
- (16) 9.4 項で作成するVSAMメッセージファイル(JEF) のデータ部
- (17) 9.4 項で作成するVSAMメッセージファイル(JEF) のインデックス部
- (18) DBSPマスタファイル
- (19) YPS/COBOL 用外部構文定義仕様書データセット
- (20) YPS/COBOL 用外部日本語名標宣言仕様書データセット
- (21) IPF ルーチンライブラリ（注）
- (22) GEM ロードモジュールライブラリ（注）
- (23) AIM ロードモジュールライブラリ（注）

- (24) ADJUSTルーチンライブラリ (注)
 - (動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること)
- (25) SIMPLIA/TF-DATATOOL ロードモジュール (一括更新処理でDATATOOL連携を行う場合に指定)
- (26) AIM ディレクトリデータセット
- (27) COBOL85 コンパイラ (注)
- (28) SORTロードモジュールライブラリ (注)
- (29) YPS/COBOL コンパイラ (注)
- (30) 変換対象のCOPY句フォーマットアナライズテーブルファイル (@CVTOL24を使用する場合に指定)
- (31) YPS/COBOL 用イメージライブラリ
- (32) 旧V/L のDBSPマスタファイル (改名後) (@CONVERTを使用する場合に指定)
- (33) 旧V/L のDBSPロードモジュール (改名後) (@CONVERTを使用する場合に指定)

注) 認定ライブラリとなっている場合は、任意の非認定ライブラリ (DBSPのロードモジュールなど) を指定する。なお、認定ライブラリの詳細は“システムプログラミング手引書 タスク管理編”を参照されたい。

```

//U00600A JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R,NOTIFY=U00600          -----JOB 文
//*
//*****
//* マスタファイル一括修正 ジョブ制御文 1 *
//*****
//CHG1 EXEC PGM=KEQEFT01,REGION=1024K
//SYSTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTSIN DD *
EDIT * (1)DBSP.MASTER(@CHGALL2)' OLD CNTL
CHANGE 1 99999999 /#DSV01#/ (2) VOLUME/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN01#/ (3) DBSP. LOAD/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN02#/ (4) DBSP. ANMENU/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN03#/ (5) DBSP. JEFMENU/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN04#/ (6) DBSP. ANMSG/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN05#/ (7) DBSP. JEFMSG/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN06#/ (8) SYS1. COBLIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN07#/ (9) DBSP. ANMSG. ISAM/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN08#/ (10) DBSP. JEFMSG. ISAM/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN09#/ (11) USER. UCAT/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN10#/ (12) DBSP. ANMSG. VSAM/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN11#/ (13) DBSP. ANMSG. DATA/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN12#/ (14) DBSP. ANMSG. IDX/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN13#/ (15) DBSP. JEFMSG. VSAM/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN14#/ (16) DBSP. JEFMSG. DATA/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN15#/ (17) DBSP. JEFMSG. IDX/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN16#/ (18) DBSP. MASTER/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN17#/ (19) YPS. YSLIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN18#/ (20) YPS. YJLIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN19#/ (21) SYS1. IPF. LINKLIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN20#/ (22) PP1. LINKLIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN21#/ (23) AIM1. LINKLIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN22#/ (24) SYS1. ADJ. LINKLIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN23#/ (25) DATATOOL. LOAD/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN24#/ (26) AIM1. DRCTLIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN25#/ (27) SYS1. COB. LINKLIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN26#/ (28) PP1. LINKLIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN27#/ (29) SYS1. YPS. LINKLIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN28#/ (30) DBSP. ANALIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN29#/ (31) YPS. IMAGELIB/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN30#/ (32) DBSP. MASTER. OLD/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN31#/ (33) DBSP. LOAD. OLD/ALL
END SAVE
/*
//

```

図9.5 DBSPマスタファイルの一括修正用ジョブ制御文 :@CHGALL1

@CHGALL1の修正例を以下に示す.

```
      :
EDIT  '(1)DBSP.MASTER(@CHGALL2)' OLD CNTL
CHANGE 1 99999999 /#DSV01#/(2)VOLUME/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN01#/(3)DBSP.LOAD/ALL
      :
      ↓
      :
EDIT  'U00600.DBSP.MASTER(@CHGALL2)' OLD CNTL
CHANGE 1 99999999 /#DSV01#/VOL100/ALL
CHANGE 1 99999999 /#DSN01#/U00600.DBSP.LOAD/ALL
      :
```

9.2.2 ジョブ制御文 (@CHGALL2) の修正

図9.6 にジョブ制御文 (@CHGALL2) を示す.

#で囲まれた文字列は, @CHGALL1の実行によって指定した文字列に置換される.

文字列が正常に置換されているか確認し, 必要があれば更に変更を加える. また, JOB 文を利用者の環境に合わせて修正する.

なお, @CHGALL1においてCHANGEコマンドを削除して実行した場合, @CHGALL2においても#で囲まれた文字列が残っているCHANGEコマンドを削除する.

```
//U00600A JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=R,NOTIFY=U00600          -----JOB 文
//*
//*****
//* マスタファイル一括修正 ジョブ制御文 2 *
//*****
//CHG2 EXEC PGM=KEQEFT01,REGION=1024K
//SYSTSPRT DD SYSOUT=*
//SYSTSIN DD *
EDIT '#DSN16#(INSTALL)' +
  OLD CNTL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSV01@/#DSV01#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN01@/#DSN01#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN02@/#DSN02#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN03@/#DSN03#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN04@/#DSN04#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN05@/#DSN05#/ALL
END SAVE

~

EDIT '#DSN16#(DELETE)' +
  OLD CNTL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN16@/#DSN16#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN01@/#DSN01#/ALL
CHANGE 1 99999999 +
  /@DSN06@/#DSN06#/ALL
END SAVE
/*
//
```

図9.6 DBSPマスタファイルの一括修正用ジョブ制御文 :@CHGALL2

9.3 インストール用ジョブ制御文の実行

9.3.1 磁気テープ媒体からのインストール

DBSPマスタファイル (DBSP.MASTER) をローディング後、図9.7 に示すインストール用ジョブ制御文を実行する。このジョブ制御文は、DBSPマスタファイルのメンバ：INSTALL である。

図9.7 に示す下線部は、修正箇所である。修正箇所の内容を以下に示す。

- ① DBSPのロードモジュール
- ② メニュー定義体 (A/N)
- ③ メニュー定義体 (JEF)
- ④ PSメッセージファイル (A/N)
- ⑤ PSメッセージファイル (JEF)
- ⑥ データセットを割り当てるボリューム通し番号と容量など

なお、@で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し、必要があれば更に変更を加える。

【注意事項】

ユーザ出口のレコード内容長を32632 バイトにする場合、(注) の//を//* に修正すること。

```

//U00600A JOB , CLASS=H, MSGCLASS=X, NOTIFY=U00600 _____JOB 文
/***** LOAD MODULE RESTORE *****/
//STEP01 EXEC PGM=JSECOPI
//SYSUT1 DD DSN=DBSP. LOAD, LABEL=(02, SL),
//          UNIT=MT, VOL=SER=DBSP33, DISP=(OLD, PASS)
//SYSUT2 DD DSN=@DSN01@, _____①
//          SPACE=(TRK, (120, 10, 50), RLSE), _____⑥
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=@DSV01@, DISP=(NEW, CATLG, DELETE) _____⑥
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
/***** A/N MENU RESTORE *****/
//STEP02 EXEC PGM=JSECOPI
//SYSUT1 DD DSN=DBSP. ANMENU, LABEL=(03, SL),
//          UNIT=MT, VOL=SER=DBSP33, DISP=(OLD, PASS)
//SYSUT2 DD DSN=@DSN02@, _____②
//          SPACE=(TRK, (50, 10, 10), RLSE), _____⑥
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=@DSV01@, DISP=(NEW, CATLG, DELETE) _____⑥
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
/***** JEF MENU RESTORE *****/
//STEP03 EXEC PGM=JSECOPI
//SYSUT1 DD DSN=DBSP. JEFMENU, LABEL=(04, SL),
//          UNIT=MT, VOL=SER=DBSP33, DISP=(OLD, PASS)
//SYSUT2 DD DSN=@DSN03@, _____③
//          SPACE=(TRK, (50, 10, 10), RLSE), _____⑥
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=@DSV01@, DISP=(NEW, CATLG, DELETE) _____⑥
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
/***** A/N MESSAGE FILE RESTORE *****/
//STEP04 EXEC PGM=JSDGENER
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD DSN=DBSP. ANMSG, LABEL=(05, SL),
//          UNIT=MT, VOL=SER=DBSP33, DISP=(OLD, PASS)
//SYSUT2 DD DSN=@DSN04@, _____④
//          SPACE=(TRK, (2, 1), RLSE), _____⑥
//          DCB=(LRECL=160, BLKSIZE=3200, RECFM=FB, DSORG=PS),
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=@DSV01@, DISP=(NEW, CATLG, DELETE) _____⑥
//SYSIN DD DUMMY

```

図9.7 インストール用ジョブ制御文：INSTALL (続く)

```

/***** JEF MESSAGE FILE RESTORE *****/
//STEP05 EXEC PGM=JSDGENER
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD DSN=DBSP. JEFMSG, LABEL=(06, SL),
//          UNIT=MT, VOL=SER=DBSP33, DISP=(OLD, PASS)
//SYSUT2 DD DSN=@DSN05@, _____⑤
//          SPACE=(TRK, (2, 1), RLSE), _____⑥
//          DCB=(LRECL=160, BLKSIZE=3200, RECFM=FB, DSORG=PS),
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=@DSV01@, DISP=(NEW, CATLG, DELETE) _____⑥
//SYSIN DD DUMMY
// _____ (注)
/***** ユーザ出口のレコード内容長を32632バイトにする場合 *****/
/***** LOAD MODULE 2 RESTORE *****/
//STEP06 EXEC PGM=JSECOPY
//INPUT DD DSN=DBSP. LOAD2, LABEL=(10, SL),
//         UNIT=MT, VOL=SER=DBSP33, DISP=(OLD, PASS)
//OUTPUT DD DSN=@DSN01@, DISP=OLD _____①
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY OUTDD=OUTPUT, INDD=((INPUT, R))
SELECT MEMBER=JSMDX360, JSMDX320, JSMDFO20
/*
//

```

図9.7 インストール用ジョブ制御文 :INSTALL (続き)

9.3.2 DVD 媒体からのインストール

DBSPマスタファイル(DBSP.MASTER)をローディング後、図9.8に示すインストール用ジョブ制御文を実行する。このジョブ制御文は、DBSPマスタファイルのメンバ:INSTALL2である。

図9.8に示す下線部は、修正箇所である。修正箇所の内容を以下に示す。

- ① DBSPのロードモジュール
- ② メニュー定義体(A/N)
- ③ メニュー定義体(JEF)
- ④ PSメッセージファイル(A/N)
- ⑤ PSメッセージファイル(JEF)
- ⑥ データセットを割り当てるボリューム通し番号と容量など

なお、@で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し、必要があれば更に変更を加える。

【注意事項】

ユーザ出口のレコード内容長を32632バイトにする場合、(注)の//を//*に修正すること。

```

//U00600A JOB , CLASS=H, MSGCLASS=X, NOTIFY=U00600 _____JOB 文
/***** LOAD MODULE RESTORE *****/
//STEP01 EXEC PGM=JSECOPY
//SYSUT1 DD DSN=DBSP. LOAD,
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=DVDVOL, DISP=OLD
//SYSUT2 DD DSN=@DSN01@, _____①
//          SPACE=(TRK, (120, 10, 50), RLSE), _____⑥
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=@DSV01@, DISP=(NEW, CATLG, DELETE) _____⑥
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
/***** A/N MENU RESTORE *****/
//STEP02 EXEC PGM=JSECOPY
//SYSUT1 DD DSN=DBSP. ANMENU,
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=DVDVOL, DISP=OLD
//SYSUT2 DD DSN=@DSN02@, _____②
//          SPACE=(TRK, (50, 10, 10), RLSE), _____⑥
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=@DSV01@, DISP=(NEW, CATLG, DELETE) _____⑥
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY

```

図9.8 インストール用ジョブ制御文 :INSTALL2 (続く)

```

/***** JEF MENU RESTORE *****/
//STEP03 EXEC PGM=JSECOPY
//SYSUT1 DD DSN=DBSP.JEFMENU,
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=DVDVOL, DISP=OLD
//SYSUT2 DD DSN=@DSN03@, _____③
//          SPACE=(TRK, (50, 10, 10), RLSE), _____⑥
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=@DSV01@, DISP=(NEW, CATLG, DELETE) _____⑥
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
/***** A/N MESSAGE FILE RESTORE *****/
//STEP04 EXEC PGM=JSDGENER
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD DSN=DBSP.ANMSG,
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=DVDVOL, DISP=OLD
//SYSUT2 DD DSN=@DSN04@, _____④
//          SPACE=(TRK, (2, 1), RLSE), _____⑥
//          DCB=(LRECL=160, BLKSIZE=3200, RECFM=FB, DSORG=PS),
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=@DSV01@, DISP=(NEW, CATLG, DELETE) _____⑥
//SYSIN DD DUMMY
/***** JEF MESSAGE FILE RESTORE *****/
//STEP05 EXEC PGM=JSDGENER
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD DSN=DBSP.JEFMSG,
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=DVDVOL, DISP=OLD
//SYSUT2 DD DSN=@DSN05@, _____⑤
//          SPACE=(TRK, (2, 1), RLSE), _____⑥
//          DCB=(LRECL=160, BLKSIZE=3200, RECFM=FB, DSORG=PS),
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=@DSV01@, DISP=(NEW, CATLG, DELETE) _____⑥
//SYSIN DD DUMMY _____ (注)
/*****ユーザ出口のレコード内容長を32632 バイトにする場合 *****/
/***** LOAD MODULE 2 RESTORE *****/
//STEP06 EXEC PGM=JSECOPY
//INPUT DD DSN=DBSP.LOAD2,
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=DVDVOL, DISP=OLD
//OUTPUT DD DSN=@DSN01@, DISP=OLD _____①
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY OUTDD=OUTPUT, INDD=((INPUT, R))
SELECT MEMBER=JSMDX360, JSMDX320, JSMDFO20
/*
//

```

図9.8 インストール用ジョブ制御文 :INSTALL2 (続き)

9.4 メッセージファイルの作成

インストールを行ったPSメッセージファイルをISAMまたはVSAMに変換することにより、メッセージファイルを作成する。

ISAMに変換するジョブ制御文は、図9.9 に示すISAMメッセージファイル作成ジョブ制御文でありDBSPマスタファイルのメンバ:ISFG である。

また、VSAMに変換するジョブ制御文は、図9.10に示すVSAMメッセージファイル作成ジョブ制御文であり、DBSPマスタファイルのメンバ:VSFG である。

ただし、CKD-EXコマンドサポートのファイル制御装置 (F1700Eなど) を使用の際は、VSAMメッセージファイル作成ジョブ制御文を実行しなければならない。

図9.9 または図9.10に示す下線部は修正箇所である。修正箇所の内容を以下に示す。

- ① DBSPのロードモジュール
- ② COBOL85 ライブラリ
- ③ インストール済みのPSメッセージファイル (A/N)
- ④ インストール済みのPSメッセージファイル (JEF)
- ⑤ 作成するISAMまたはVSAMメッセージファイル (A/N)
- ⑥ 作成するISAMまたはVSAMメッセージファイル (JEF)

- ⑦ 作成するメッセージファイルを割り当てるボリューム通し番号など
- ⑧ 作成するVSAMメッセージファイル(A/N) のインデックス部, データ部
- ⑨ 作成するVSAMメッセージファイル(JEF) のインデックス部, データ部
- ⑩ ユーザカタログ (マスタカタログで管理する場合は不要)

なお, @で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される. 文字列が正常に置換されているか確認し, 必要があれば更に変更を加える.

```

//U00600A JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=X,NOTIFY=U00600 _____JOB 文
//*****
//* MESSAGE FILE (ISAM) CREATE JOB 'DBSP.MASTER(1SFG)' *
//*****
//ANMSG EXEC PGM=JSMZISM, PARM=NEW
//STEPLIB DD DSN=@DSN01@, DISP=SHR _____①
// DD DSN=@DSN06@, DISP=SHR _____②
//INF DD DSN=@DSN04@, DISP=SHR _____③
//MSGLIB DD DSN=@DSN07@, _____⑤
// SPACE=(CYL,(1)),
// DCB=(DSORG=IS, LRECL=160, BLKSIZE=3200, KEYLEN=8, PKP=0),
// UNIT=SYSDA, VOL=SER=@DSV01@, DISP=(NEW, CATLG, DELETE) _____⑦
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//JEFMSG EXEC PGM=JSMZISM, PARM=NEW
//STEPLIB DD DSN=@DSN01@, DISP=SHR _____①
// DD DSN=@DSN06@, DISP=SHR _____②
//INF DD DSN=@DSN05@, DISP=SHR _____④
//MSGLIB DD DSN=@DSN08@, _____⑥
// SPACE=(CYL,(1)),
// DCB=(DSORG=IS, LRECL=160, BLKSIZE=3200, KEYLEN=8, PKP=0),
// UNIT=SYSDA, VOL=SER=@DSV01@, DISP=(NEW, CATLG, DELETE) _____⑦
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//

```

図9.9 ISAMメッセージファイル作成ジョブ制御文: 1SFG

```

//U00600A JOB ,CLASS=A,MSGCLASS=X,NOTIFY=U00600 _____JOB 文
//*****
//* MESSAGE FILE (VSAM) CREATE JOB 'DBSP.MASTER(VSFG)' *
//*****
//*JOBCAT DD DSN=@DSN09@, DISP=SHR _____⑩
//DEFCL EXEC PGM=KQCAMS, REGION=768K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DEF CLUSTER (NAME(@DSN10@) - _____⑤
INDEXED KEYS(8 0) -
UNIQUE VOLUME(@DSV01@) TRACKS(1 1) - _____⑦
RECORDS SIZE(160 160)) -
DATA (NAME(@DSN11@)) - _____⑧
INDEX (NAME(@DSN12@)) _____⑧
DEF CLUSTER (NAME(@DSN13@) - _____⑥
INDEXED KEYS(8 0) -
UNIQUE VOLUME(@DSV01@) TRACKS(1 1) - _____⑦
RECORDS SIZE(160 160)) -
DATA (NAME(@DSN14@)) - _____⑨
INDEX (NAME(@DSN15@)) _____⑨
//REPRO EXEC PGM=KQCAMS, REGION=768K
//PSAN DD DSN=@DSN04@, DISP=SHR _____③
//VSAMAN DD DSN=@DSN10@, DISP=OLD _____⑤
//PSJEF DD DSN=@DSN05@, DISP=SHR _____④
//VSAMJEF DD DSN=@DSN13@, DISP=OLD _____⑥
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
REPRO INFILE(PSAN) OUTFILE(VSAMAN)
REPRO INFILE(PSJEF) OUTFILE(VSAMJEF)
//

```

図9.10 VSAMメッセージファイル作成ジョブ制御文: VSFG

9.5 DBSPマスタファイルの確認/修正

インストールを行ったDBSPマスタファイルに存在するジョブ制御文、コマンドプロシジャなど、利用者が内容を変更しなければならないメンバの概要を表9.1 に示す。

(1) ～(19)については、変更の詳細を説明し、対象メンバの内容と変更箇所を図9.11～図9.29に示す。

なお、@で囲まれた文字列は一括修正の実行によって指定した文字列に置換される。文字列が正常に置換されているか確認し、必要があれば更に変更を加える。

表9.1 DBSPマスタファイルの変更概要 (続く)

番号	メンバ名	概要	内容
(1)	@CVTOL24	COPY句環境コンバート用JCL	COPY句フォーマットアナライズテーブルファイルのコンバート用ジョブ制御文 ◆参照 → 図9.11
(2)	@JCL	環境セットアップ用JCL	環境セットアップにおいて、“DBSPの環境生成メニュー画面”でENTER キーを押下した時点で起動される。 ◆参照 → 図9.12
(3)	@JCL2	COPY句環境セットアップ用JCL	COPY句環境セットアップにおいて、“COPY句メンバ名の入力画面”でENTER キーを押下した時点で起動される。 ◆参照 → 図9.13
(4)	@JCL3	印刷処理用JCL	印刷処理において、“印刷の属性定義画面”でPF3 キーを押下した時点で起動される。 ◆参照 → 図9.14
(5)	@JCL4	YPS 構造体環境セットアップ用JCL	YPS 構造体環境セットアップにおいて、“YPS 構造体メンバ名の入力画面”でENTER キーを押下した時点で起動される。 ◆参照 → 図9.15
(6)	@OPTION	COBOL85 翻訳オプション	環境セットアップにおけるスキーマおよびサブスキーマの解析、COPY句環境セットアップにおけるCOPY句の解析で使用されるCOBOL85翻訳オプション ◆参照 → 図9.16
(7)	@PRINT1	ユーティリティ処理結果印刷用JCL	ユーティリティ処理を行った場合、環境セットアップを終了させた時点で起動される。 ◆参照 → 図9.17
(8)	@PRINT2	ログリスト印刷用JCL	ログ収集を行った場合、データベース更新・表示を終了した時点で起動される。 ◆参照 → 図9.18
(9)	@SPACES	環境セットアップ用ファイル容量	環境セットアップで割り当てられるファイルの容量 ◆参照 → 図9.19
(10)	@SPACEU	データベース更新・表示用ファイル容量	データベース更新・表示で割り当てられるファイルの容量 ◆参照 → 図9.20
(11)	@SYSTEM	必要ソフトウェアの定義	DBSPで必要なソフトウェアの定義 ◆参照 → 図9.21
(12)	@YPSCOPT	COBOL85 翻訳オプション (YPS 用)	YPS 構造体環境セットアップにおいて、YPS 構造体の解析で使用されるCOBOL85 翻訳オプション ◆参照 → 図9.22
(13)	@YPSYOPT	YPS/COBOL 翻訳オプション	YPS 構造体環境セットアップにおいて、YPS 構造体の解析で使用されるYPS/COBOL 翻訳オプション ◆参照 → 図9.23
(14)	DBCCREATE	一括更新処理用JCL	一括更新処理用のジョブ制御文 ◆参照 → 図9.24
(15)	DBSETUP	環境セットアップ起動用コマンドプロシジャ	環境セットアップ起動用のコマンドプロシジャ ◆参照 → 図9.25

表9.1 DBSPマスタファイルの変更概要(続き)

番号	メンバ名	概要	内容
(16)	DBUPDATE	データベース更新・表示起動用コマンドプロシジャ	データベース更新・表示起動用のコマンドプロシジャ ◆参照 → 図9.26
(17)	PROFILE	プロフィール参照用コマンドプロシジャ	DBSPのプロフィール参照用コマンドプロシジャ ◆参照 → 図9.27
(18)	@CONVERT	プロジェクト管理情報コンバート用JCL	プロジェクト管理情報(@PROJECT)のコンバート用ジョブ制御文 ◆参照 → 図9.28
(19)	@DELETE	プロジェクト削除用JCL	プロジェクト削除処理用ジョブ制御文 ◆参照 → 図9.29
(20)	INCHKSC	稼動確認用提供スキーマ	稼動確認用の提供スキーマ ◆参照 → 9.6
(21)	DBSPEXON	会話処理ユーザ出口ひな型ソース	会話処理ユーザ出口用のひな型COBOL ソース
(22)	DBSPEXBT	バッチ処理ユーザ出口ひな型ソース	バッチ処理ユーザ出口用のひな型COBOL ソース

環境セットアップを行うとプロジェクトマスタファイルが作成される。表9.1の(4)～(6)，(8)～(14)および(16)はプロジェクトマスタファイルに複写され、その内容が使用される。

(1) @CVTOL24 (図9.11)

COPY句フォーマットアナライズテーブルファイルのコンバート用ジョブ制御文

DBSP V30L21 ~ V30L23 からの移行:旧V/L のCOPY句環境の移行作業を行う場合に使用する。
◆参照 → 5.7

- ① インストールを行ったDBSPマスタファイル
- ② インストールを行ったDBSPロードモジュール
- ③ COBOL85 ライブラリ (注1)
- ④ 変換対象のCOPY句フォーマットアナライズテーブルファイル
- ⑤ 変換対象のCOPY句フォーマットアナライズテーブルファイルのボリューム通し番号
- ⑥ 新COPY句フォーマットアナライズテーブルファイルを創成する際のボリューム通し番号 (注2)
- ⑦ 退避COPY句フォーマットアナライズテーブルファイルを創成する際のボリューム通し番号
- ⑧ 新COPY句フォーマットアナライズテーブルファイルを創成する際のUNITタイプ (注2)
- ⑨ 新COPY句フォーマットアナライズテーブルファイルを創成する際のスペース単位
- ⑩ 新COPY句フォーマットアナライズテーブルファイルを創成する際の初期量
- ⑪ 新COPY句フォーマットアナライズテーブルファイルを創成する際の増分量
- ⑫ 新COPY句フォーマットアナライズテーブルファイルを創成する際のディレクトリブロック数

◆【1】
4.2

注1) 認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。なお、認定ライブラリの詳細は“システムプログラミング手引書 タスク管理編”を参照されたい。

注2) 再環境セットアップを行ったプロジェクト環境と同じボリューム通し番号、UNITタイプを指定すること。

(2) @JCL (図9.12)

環境セットアップを行うためのジョブ制御文

- ① インストールを行ったDBSPロードモジュール
- ② ユーザカタログ (注1)
- ③ インストールを行ったDBSPマスタファイル
- ④ COBOL85 翻訳オプション (注2)

注1) 日本語名標辞書をVSAMファイルで管理する場合、STEP CAT DD文のコメント化を解除する。

注2) これらの翻訳オプションの他、必須となるのは OBJECT, RSV(ALL), NOTEST である。

もし省略値が上記のものでない場合は、明に指定しなければならない。

(3) @JCL2 (図9.13)

COPY句環境セットアップを行うためのジョブ制御文

- ① インストールを行ったDBSPロードモジュール
- ② ユーザカタログ (注)

注) 日本語名標辞書をVSAMファイルで管理する場合、STEP CAT DD文のコメント化を解除する。

(4) @JCL3 (図9.14)

レコードの印刷を行うためのジョブ制御文

- ① インストールを行ったDBSPロードモジュール

(5) @JCL4 (図9.15)

YPS 構造体環境セットアップを行うためのジョブ制御文

- ① インストールを行ったDBSPロードモジュール
- ② イメージライブラリ (使用しない場合は不要)
- ③ 外部構文定義仕様書データセット (使用しない場合は不要)
- ④ 外部日本語名標宣言仕様書データセット (使用しない場合は不要)
- ⑤ 用紙制御イメージ識別名 (8LPIになるように指定)
- ⑥ YPS 仕様書出力時の文字セット名
- ⑦ ユーザカタログ (注)

注) 日本語名標辞書をVSAMファイルで管理する場合, STEPCAT DD文のコメント化を解除する.

(6) @OPTION (図9.16)

SCHEMA, SUBSCHEMA 定義体のRECORDエントリ, およびCOPY句を解析するための翻訳オプションを指定する.

なお, 各翻訳オプションにおいて, 下線が引かれているものを標準値とする.

以下に詳細を述べる.

- ① CURRENCY { ¥ }
注) に示す以外の文字

CURRENCYで指定した文字を, 特殊名段落のCURRENCY SIGN 句で指定する通貨記号とみなす.

注) 数字 : 0~9
 英大文字 : A, B, C, D, E, N, P, R, S, V, X, Z
 英小文字 : a~z, 空白
 特殊文字 : “*”, “+”, “-”, “,”, “.”, “;”, “(”, “)”, “/”, “=”

- ② DPOINT { P }
C

P : PERIOD
 C : COMMA

数字編集項目において, PERIODを小数点とみなすか, COMMA を小数点とみなすかを指定する.

- ③ APQUOTE { Q }
A

Q : QUOTE
 A : APOST

引用符としてクォーテーションマーク (”) を使う (QUOTE) か, アポストロフィ (’) を使う (APOST)かを指定する.

- ④ RSV { ALL }
V51
V10
V111
V112
VSR2
VSR3
USER

ALL	: COBOL85 V12L10の予約語	V112	: COBOL85 V11L20の予約語
V51	: COBOL V05 の予約語	VSR2	: VS COBOL II Rel 2.0の予約語
V10	: COBOL V10 の予約語	VSR3	: VS COBOL II Rel 3.0の予約語
V111	: COBOL85 V11L11の予約語	USER	: 利用者が決定する固有の予約語

予約語として、どの集合のものを用いるか指定する。

【注意事項】RSV は、COBOL のバージョンレベルによって異なる。

⑤ ALPHAL $\left\{ \begin{array}{l} \underline{YES} \\ NO \end{array} \right\}$

YES : 英小文字を対応する英大文字と等価に扱う。
NO : 英小文字を英大文字と等価に扱わない。

英小文字を対応する英大文字と等価に扱う (YES) か、扱わない (NO) かを指定する。

⑥ RECNAME $\left\{ \begin{array}{l} \underline{1} \\ 0 \end{array} \right\}$

1 : COPY句の先頭に01レベルが存在しない。
0 : COPY句の先頭に01レベルが存在する。

COPY句の先頭に01レベルが存在するかないかを指定する。当オプションは、COPY句環境セットアップで使用する。

⑦ USERS

①～⑥のオプション以外で、標準値以外のオプションを指定する必要がある場合に、そのオプションを12カラム目からコンマ(,)で区切って、66カラム目以内に指定する。

(7) @PRINT1 (図9.17)

ユーティリティ処理結果を印刷するためのジョブ制御文

① インストールを行ったDBSPロードモジュール

(8) @PRINT2 (図9.18)

ログリストを印刷するためのジョブ制御文

① インストールを行ったDBSPロードモジュール

(9) @SPACES (図9.19)

環境セットアップで割り当てられるファイルの容量を指定する。

この容量は、特に修正する必要はない。

環境生成時に、容量不足のためにエラーとなった場合に修正すればよい。

(DASD上の大きさ 単位: TRK)

- (a) 初期量 (12カラム目から3桁固定 指定可能範囲: 001 ~ 999)
- (b) 増分量 (16カラム目から3桁固定 指定可能範囲: 001 ~ 999)
- (c) ディレクトリ量 (20カラム目から3桁固定 指定可能範囲: 001 ~ 999)

作業ファイルの詳細を以下に述べる

- ① 実行結果リストファイル
- ② プロジェクトマスタファイル (プロジェクト名: MASTER. DATA)
- ③ ソートワークファイル
- ④ ADL 管理ファイル (プロジェクト名: DBSP. ADLCNTL)

- ⑤ データベース検索テーブルファイル (プロジェクト名. DBSP. DBACSTBL)
- ⑥ フォーマットアナライズテーブルファイル (プロジェクト名. DBSP. DBFMTTBL) ◆【1】 4.2
- ⑦ レコードフォーマットCOPY句ファイル (アクセス名がRCOPYLIBのワークファイル)
- ⑧ レコード編集テーブル (プロジェクト名. DBSP. RACVTTBL)
- ⑨ データベース物理構造ファイル (プロジェクト名. DBSP. DBUTYLIB)
- ⑩ ワークファイル
- ⑪ ワークファイル
- ⑫ ワークファイル
- ⑬ ADL ソース解析用作業ファイル
- ⑭ ADL ソース解析用作業ファイル
- ⑮ ADL ソース解析用作業ファイル

(10) @SPACEU (図9.20)

データベース更新・表示で割り当てられるファイルの容量を指定する。
この容量も、上記(9) @SPACES と同様、特に修正する必要はない。

(DASD上の大きさ 単位: TRK)

- (a) 初期量 (12カラム目から3桁固定 指定可能範囲: 001 ~ 999)
- (b) 増分量 (16カラム目から3桁固定 指定可能範囲: 001 ~ 999)

作業ファイルの詳細を以下に述べる。

- ① ログ情報ファイル (ユーザID. DBSP. LOGLST)
- ② 実行結果ファイル (レコード印刷用)
- ③ 実行結果ファイル (レコード印刷用)
- ④ 印刷制御文ファイル (レコード印刷用) (ユーザID. DBSP. タイムスタンプ)

(11) @SYSTEM (図9.21)

DBSPで必要なソフトウェアを定義する。

- ① AIM ディレクトリデータセット
- ② COBOL85 ライブラリ (注)
- ③ IPF ルーチンライブラリ (注)
- ④ GEM ロードモジュールライブラリ (注)
- ⑤ ADJUSTルーチンライブラリ (注)
(動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること)
- ⑥ AIM ロードモジュールライブラリ (注)
- ⑦ COBOL85 コンパイラ (注)
- ⑧ SORTロードモジュールライブラリ (注)
- ⑨ YPS/COBOL コンパイラ (注)

注) 認定ライブラリとなっている場合は、任意の非認定ライブラリ (DBSPのロードモジュールなど) を指定する。なお、認定ライブラリの詳細は“システムプログラミング手引書 タスク管理編”を参照されたい。

(12) @YPSOFT (図9.22)

YPS 構造体を解析するためのCOBOL85 翻訳オプションを指定する。

なお、各翻訳オプションにおいて、下線が引かれているものを標準値とする。

以下に詳細を述べる。

① CURRENCY { $\frac{\text{¥}}{\text{注) に示す以外の文字}}$ }

CURRENCYで指定した文字を、特殊名段落のCURRENCY SIGN 句で指定する通貨記号とみなす。

注) 数字 : 0 ~ 9
英大文字 : A, B, C, D, E, N, P, R, S, V, X, Z
英小文字 : a ~ z, 空白
特殊文字 : “*”, “+”, “-”, “,”, “.”, “;”, “(”, “)”, “/”, “=”

② DPOINT { $\frac{P}{C}$ }

P : PERIOD
C : COMMA

数字編集項目において、PERIODを小数点とみなすか、COMMA を小数点とみなすかを指定する。

③ APQUOTE { $\frac{Q}{A}$ }

Q : QUOTE
A : APOST

引用符としてクォーテーションマーク (”) を使う (QUOTE) か、アポストロフィ (’) を使う (APOST) かを指定する。

④ RSV { $\frac{ALL}{V51}$
V10
V111
V112
VSR2
VSR3
USER }

ALL : COBOL85 V12L10の予約語
V51 : COBOL V05 の予約語
V10 : COBOL V10 の予約語
V111 : COBOL85 V11L11の予約語
V112 : COBOL85 V11L20の予約語
VSR2 : VS COBOL II Rel 2.0の予約語
VSR3 : VS COBOL II Rel 3.0の予約語
USER : 利用者が決定する固有の予約語

予約語として、どの集合のものを用いるか指定する。

【注意事項】 RSV は、COBOL のバージョンレベルによって異なる。

⑤ ALPHAL { $\frac{YES}{NO}$ }

YES : 英小文字を対応する英大文字と等価に扱う。
NO : 英小文字を英大文字と等価に扱わない。

英小文字を対応する英大文字と等価に扱う (YES) か、扱わない (NO) かを指定する。

⑥ RECNAME { $\frac{1}{0}$ }

1 : COPY句の先頭に01レベルが存在しない。
0 : COPY句の先頭に01レベルが存在する。

COPY句の先頭に01レベルが存在するかないかを指定する。当オプションは、YPS構造体環境セットアップで使用する。

⑦ USERS

①～⑥のオプション以外で、標準値以外のオプションを指定する必要がある場合に、そのオプションを12カラム目からコンマ(,)で区切って、66カラム目以内に指定する。

(13) @YPSYOPT (図9.23)

YPS 構造体を解析するためのYPS/COBOL 翻訳オプションを指定する。

なお、各翻訳オプションの詳細は“YPS/COBOL コンパイラ使用手引書”を参照されたい。

(14) DBCREATE (図9.24)

一括更新処理用のジョブ制御文

- ① SIMPLIA/TF-DATATOOL ロードモジュール (DATATOOL連携を行う場合はコメントをはずす)
- ② インストールを行ったDBSPロードモジュール
- ③ 一括更新制御文ファイル
- ④ 制御パラメタ

(15) DBSETUP (図9.25)

環境セットアップ起動用のコマンドプロシジャ

- ① インストールを行ったDBSPロードモジュール
- ② ISAMまたはVSAMメッセージファイル(A/N)
- ③ インストールを行ったメニュー定義体(A/N)
- ④ ISAMまたはVSAMメッセージファイル(JEF)
- ⑤ インストールを行ったメニュー定義体(JEF)
- ⑥ インストールを行ったDBSPマスタファイル
- ⑦ COBOL85 ライブラリ (注)
- ⑧ IPF ルーチンライブラリ (注)
- ⑨ GEM ロードモジュールライブラリ (注)
- ⑩ AIM ロードモジュールライブラリ (注)
- ⑪ ADJUSTルーチンライブラリ (注)

(動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること)

注) 認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。なお、認定ライブラリの詳細は“システムプログラミング手引書 タスク管理編”を参照されたい。

(16) DBUPDATE (図9.26)

データベース更新・表示起動用のコマンドプロシジャ

- ① インストールを行ったDBSPロードモジュール
- ② ISAMまたはVSAMメッセージファイル(A/N)
- ③ インストールを行ったメニュー定義体(A/N)
- ④ ISAMまたはVSAMメッセージファイル(JEF)
- ⑤ インストールを行ったメニュー定義体(JEF)

(17) PROFILE (図9.27)

DBSPのプロフィール参照用コマンドプロシジャ

- ① インストールを行ったDBSPロードモジュール
- ② COBOL85 ライブラリ (注)

注) 認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。なお、認定ライブラリの詳細は“システムプログラミング手引書 タスク管理編”を参照されたい。

(18) @CONVERT (図9.28)

プロジェクト管理情報(@PROJECT)のコンバート用ジョブ制御文

DBSP V30L24 ~ V33L10 からの移行:旧V/L のプロジェクト環境の移行作業を行う場合に使用する。
◆参照 → 5.8

- ① インストールを行ったDBSPマスタファイル
- ② 一時データセットのUNITタイプ
- ③ インストールを行ったDBSPロードモジュール
- ④ COBOL85 ライブラリ (注)
- ⑤ 旧V/L のDBSPマスタファイル (改名後)
- ⑥ 旧V/L のDBSPロードモジュール (改名後)

注) 認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。なお、認定ライブラリの詳細は“システムプログラミング手引書 タスク管理編”を参照されたい。

(19) @DELETE (図9.29)

プロジェクト削除処理用のジョブ制御文

- ① インストールを行ったDBSPマスタファイル
- ② インストールを行ったDBSPロードモジュール
- ③ COBOL85 ライブラリ (注)
- ④ プロジェクト名
- ⑤ インストールを行ったDBSPマスタファイル

注) 認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。なお、認定ライブラリの詳細は“システムプログラミング手引書 タスク管理編”を参照されたい。

```

//U00600T JOB ,CLASS=B,MSGCLASS=G,NOTIFY=U00600 _____JOB 文
//JOBPROC DD DSN=@DSN16@,DISP=SHR _____①
//JOBLIB DD DSN=@DSN01@,DISP=SHR _____②
// DD DSN=@DSN06@,DISP=SHR _____③
//*****
//* SIMPLIA/TF-DBSP アナライズ ファイルコンバート JCL *
//*****
//CONVANA EXEC PROC=CONVANA1,
// ANALIB='@DSN28@', _____④
// VOLOLD=@DSV01@, _____⑤
// VOLNEW=@DSV01@, _____⑥
// VOLSAV=@DSV01@, _____⑦
// UNIT=SYSDA, _____⑧
// SP=TRK, _____⑨
// PRIM=20, _____⑩
// SEC=5, _____⑪
// DIR=10 _____⑫
//

```

図9.11 COPY句環境コンバート用JCL :@CVTOL24

```

%JOB
%J01
%J02
%J03
//*****
//* SIMPLIA/TF-DBSP ENVIRONMENT CREATE JOB 'DBSP.MASTER(@JCL)' *
//*****
//JOBLIB DD DSN=@DSN01@,DISP=SHR _____①
// DD DSN=%P02,DISP=SHR
// DD DSN=%P04,DISP=SHR
// DD DSN=%P05,DISP=SHR
// DD DSN=%P07,DISP=SHR
// DD DSN=%P08,DISP=SHR

//*****
//* << EXEC JSMDJ030 >> : SCHEMA RECORD ENTRY ANALYZE *
//*****
//SCHREC EXEC PGM=JSMDJ030,REGION=3072K,COND=(4,LT)
//*STEPCAT DD DSN=@DSN09@,DISP=SHR _____②
//SYSOUT DD SYSOUT=%P16
//DBSYSPRT DD SYSOUT=%P16
//TBLDUMP DD DUMMY
//PRJLIB DD DSN=%P11.MASTER.DATA,DISP=SHR
//DBSPWK01 DD DSN=&&DBSPWK31,UNIT=%P13,DISP=(OLD,PASS)
//DBSPWK06 DD DSN=&&DBSPWK06,UNIT=%P13,DISP=(,PASS),
// SPACE=(TRK,(%Q22,%Q23,%Q24)),
// DCB=(OPTCD=C,DSORG=PO,RECFM=V,LRECL=9951,BLKSIZE=9955)
//DBSPWK07 DD DSN=&&DBSPWK07,UNIT=%P13,DISP=(,PASS),
// SPACE=(TRK,(%P57,%P58)),
// DCB=(RECFM=FB,LRECL=24,BLKSIZE=3240)
//RCOPYLIB DD DSN=&&RCOPYLIB,UNIT=%P13,DISP=(,PASS),
// SPACE=(TRK,(%P32,%P33,%P34)),VOL=SER=%P12,
// DCB=(DSORG=PO,RECFM=FB,LRECL=80,BLKSIZE=3120)
//DBFMTTBL DD DSN=&&DBFMTTBL,UNIT=%P13,DISP=(,PASS),
// SPACE=(TRK,(%P29,%P30,%P31)),VOL=SER=%P12,
// DCB=(DSORG=PO,RECFM=VB,LRECL=8356,BLKSIZE=8360)
//SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT,UNIT=%P13,
// SPACE=(TRK,(%Q25,%Q26,%Q27)),
// DCB=(DSORG=PO,RECFM=VB)
//SYSIN DD DSN=&&SYSIN,UNIT=%P13,
// SPACE=(TRK,(%Q30,%Q31))
//SYSUT1 DD DSN=&&SYSUT1,UNIT=%P13,
// SPACE=(TRK,(%Q28,%Q29))
//%Q11NAMLIB2 DD DSN=%Q12%Q13%Q01,DISP=SHR
//%Q14NAMLIB1 DD DSN=%Q15%Q16%Q02,DISP=SHR
//%Q17NAMLIB0 DD DSN=%Q18%Q19%Q03,DISP=SHR

//*****
//* << EXEC JSMDJ110 >> : SUBSCHEMA RECORD ENTRY ANALYZE *
//*****
//SUBREC EXEC PGM=JSMDJ110,REGION=3072K,COND=(4,LT)

```

図9.12 環境セットアップ用JCL :@JCL (1/3)

```

// *STEPCAT DD DSN=@DSN09@, DISP=SHR
// SYSOUT DD SYSOUT=%P16
// DBSYSPRT DD SYSOUT=%P16
// TBLDUMP DD DUMMY
// PRJLIB DD DSN=%P11. MASTER. DATA, DISP=SHR
// DBSPWK15 DD DSN=&&DBSPWK45, UNIT=%P13, DISP=(OLD, PASS)
// DBFMTTBL DD DSN=&&DBFMTTBL, UNIT=%P13, DISP=(OLD, PASS)
// RCOPYLIB DD DSN=&&RCOPYLIB, UNIT=%P13, DISP=(OLD, PASS)
// DBSPWK17 DD DSN=&&DBSPWK17, UNIT=%P13, DISP=(, PASS),
// SPACE=(TRK, (%P57, %P58)),
// DCB=(RECFM=FB, LRECL=34, BLKSIZE=3298)
// DBSPWK19 DD DSN=&&DBSPWK19, UNIT=%P13, DISP=(, PASS),
// SPACE=(TRK, (%P57, %P58)),
// DCB=(RECFM=FB, LRECL=500, BLKSIZE=3000)
// DBSPWK25 DD DSN=&&DBSPWK25, UNIT=%P13, DISP=(, PASS),
// SPACE=(TRK, (%P57, %P58)),
// DCB=(RECFM=FB, LRECL=10, BLKSIZE=3000)
// RACVTBL DD DSN=%P11. DBSP. RACVTBL, UNIT=%P13, DISP=(, CATLG),
// SPACE=(TRK, (%P35, %P36, %P37), RLSE),
// VOL=SER=%P12,
// DCB=(DSORG=PO, RECFM=FB, LRECL=80, BLKSIZE=3120)
// SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT, UNIT=%P13,
// SPACE=(TRK, (%Q25, %Q26, %Q27)),
// DCB=(DSORG=PO, RECFM=VB)
// SYSIN DD DSN=&&SYSIN, UNIT=%P13,
// SPACE=(TRK, (%Q30, %Q31))
// SYSUT1 DD DSN=&&SYSUT1, UNIT=%P13,
// SPACE=(TRK, (%Q28, %Q29))
// %Q11NAMLIB2 DD DSN=%Q12%Q13%Q01, DISP=SHR
// %Q14NAMLIB1 DD DSN=%Q15%Q16%Q02, DISP=SHR
// %Q17NAMLIB0 DD DSN=%Q18%Q19%Q03, DISP=SHR

// *****
// ** FOR AIM V20 & COBOL85 **
// *****
// * << EXEC JSMDJ160 >> *
// *****
// ADLSOC EXEC PGM=JSMDJ160, REGION=2048K, COND=(4, LT), PARM='%P56'
// ADLSYSIN DD DSN=@DSN16@(@PED), DISP=SHR
// SYSOUT DD SYSOUT=%P16
// DBSPWK07 DD DSN=&&DBSPWK67, UNIT=%P13, DISP=(OLD, PASS)
// DBSPWK08 DD DSN=&&DBSPWK08, UNIT=%P13, DISP=(OLD, PASS)
// DBSPWK21 DD DSN=&&DBSPWK21, UNIT=%P13, DISP=(OLD, PASS)
// DBSPWK25 DD DSN=&&DBSPWK26, UNIT=%P13, DISP=(OLD, DELETE)
// MSOURCE DD DSN=@DSN16@(JSMDBM01), DISP=SHR
// PROJECT DD DSN=%P11. MASTER. DATA, DISP=SHR
// RASAVRTN DD DSN=&&RASAVRTN, UNIT=%P13, DISP=(, PASS),
// SPACE=(TRK, (1, 1, 2)),
// DCB=(RECFM=FB, LRECL=80, BLKSIZE=3120, DSORG=PO)
// DBSPWK22 DD DSN=%P11. MASTER. DATA (ADLSOC), UNIT=%P13, DISP=SHR,
// DCB=(RECFM=FB, LRECL=80, BLKSIZE=3200)
// DBSPWK23 DD DSN=&&DBSPWK23, UNIT=%P13, DISP=(, PASS),
// SPACE=(TRK, (%P57, %P58)),
// DCB=(RECFM=FB, LRECL=80, BLKSIZE=3200)

// *****
// * << EXEC COMPIL & LINK >> *
// *****
// COBOL EXEC PGM=JMN000, REGION=2048K, COND=(4, LT, DDMS),
// PARM=('CTL(N, W), EQU, NOCONF, LAN(68), APO, SDS, NOTRU, SMS(512K)',
// 'NODLO, NOCOU, NODCT, NOREN, UWA(A), ZWB, NOLEA, TRAPC')
// SYSLIB DD DSN=&&RASAVRTN, UNIT=%P13, DISP=(OLD, DELETE)
// DD DSN=@DSN16@, DISP=SHR
// SYSIN DD DSN=&&DBSPWK23, UNIT=%P13, DISP=(OLD, DELETE)
// AIMLIB DD DSN=%P01,
// DISP=SHR, UNIT=%P14%P03%P09%P60
// SYSUT1 DD UNIT=%P13, SPACE=(TRK, (5, 5))
// SYSUT2 DD UNIT=%P13, SPACE=(TRK, (5, 5))
// SYSUT3 DD UNIT=%P13, SPACE=(TRK, (5, 5))
// SYSUT4 DD UNIT=%P13, SPACE=(TRK, (5, 5))
// SYSPRINT DD SYSOUT=%P16
// SYSLIN DD UNIT=%P13, DSN=&&OBJ, DISP=(, PASS), SPACE=(TRK, (2, 1))

```

図9.12 環境セットアップ用JCL :@JCL (2 / 3)


```

//LKED      EXEC PGM=JQAL, COND=(0, LT, COBOL), REGION=2048K,
//          PARM='REP, LIST, NOMAP, NOOVLY, NCAL, LET, DYNAMIC, SECTION (24)'
//SYSLIN    DD DSN=&&OBJ, UNIT=%P13, DISP=(OLD, DELETE)
//SYSLMOD   DD DSN=%P11. DBSPV31. LOAD (JSMDBM01), DISP=(, CATLG),
//          SPACE=(TRK, (5, 2, 1)), VOL=SER=%P12,
//          DCB=(RECFM=U, LRECL=0, BLKSIZE=6144), UNIT=%P13
//SYSUT1    DD UNIT=%P13, SPACE=(TRK, (5, 5))
//SYSPRINT  DD SYSOUT=%P16
//*****
//* LOAD MODULE COPY (JSMDBMAT) *
//*****
//COPY      EXEC PGM=JSECOPY, COND=(0, LT, LKED)
//SYSPRINT  DD DUMMY
//MASTER    DD DSN=@DSN01@, DISP=SHR ①
//PROJECT   DD DSN=%P11. DBSPV31. LOAD, DISP=SHR
//SYSUT1    DD UNIT=%P13, SPACE=(TRK, (5, 5))
//SYSUT2    DD UNIT=%P13, SPACE=(TRK, (5, 5))
//SYSIN     DD *
//          COPY INDD=MASTER, OUTDD=PROJECT
//          SELECT MEMBER=JSMDBMAT
//*****
//* << EXEC JSMDJ170 >> *
//*****
//PRJGO     EXEC PGM=JSMDJ170, PARM='%P11', COND=(0, LT, COPY)
//SYSOUT    DD SYSOUT=%P16
//MSTLIB    DD DSN=@DSN16@, DISP=SHR ③
//*****
//* CLIST CHANGE *
//*****
//CLIST     EXEC PGM=JSMDJ180, COND=(0, LT, PRJGO),
//          PARM='%P55*%Q20*%Q21'
//PRJLIB    DD DSN=%P11. MASTER. DATA, DISP=SHR
//MSTLIB    DD DSN=@DSN16@, DISP=SHR ③
//SYSOUT    DD SYSOUT=%P16
//SYSPRINT  DD SYSOUT=%P16
//*****
//* DBSP (RCOPYLIB WORK FILE DELETE) *
//*****
//ENDSTEP   EXEC PGM=KDJBR14
//*****
//UNCATLG   *****
//RCOPYU    DD DSN=%P11. DBSP. RCOPYLIB, UNIT=%P13,
//          DISP=(OLD, UNCATLG, UNCATLG), VOL=SER=%P12
//*****
//DELETE    *****
//RCOPYD    DD DSN=%P11. DBSP. RCOPYLIB, UNIT=%P13,
//          DISP=(OLD, DELETE, UNCATLG), VOL=SER=%P12
//
//

```

図9.12 環境セットアップ用JCL :@JCL (3 / 3)

```

%JOB
%J01
%J02
%J03
//*****
//* COPY ENVIRONMENT CREATE JOB 'DBSP.MASTER (@JCL2)' *
//*****
//JOB LIB DD DSN=@DSN01@, DISP=SHR ①
// DD DSN=%P02, DISP=SHR
// DD DSN=%P05, DISP=SHR
// DD DSN=%P07, DISP=SHR
//***** UNCATLG *****
//UNCAT EXEC PGM=KDJBR14, REGION=1024K
//%P15 DD DSN=%P11.DBSP.%P15, UNIT=%P13,
// DISP=(OLD, UNCATLG, UNCATLG), VOL=SER=%P12
//***** DELETE *****
//DELETE EXEC PGM=KDJBR14, REGION=1024K
//%P15 DD DSN=%P11.DBSP.%P15, UNIT=%P13,
// DISP=(OLD, DELETE, UNCATLG), VOL=SER=%P12
//*****
//* << EXEC JSMDJ200 >> *
//*****
//DBFMTTBL EXEC PGM=JSMDJ200, REGION=3072K, PARM=' COB'
//*STEP CAT DD DSN=@DSN09@, DISP=SHR ②
//MEMTBL DD DSN=%P11.DBSP.MEM.%P15, DISP=(OLD, DELETE, DELETE)
//PRJLIB DD DSN=%P11.MASTER.DATA, DISP=SHR
//RCOPYLIB DD DSN=%P23%P24%P10,
// DISP=SHR, UNIT=%P13%P25%P26%P27
//DBFMTTBL DD DSN=%P11.DBSP.%P15, UNIT=%P13, VOL=SER=%P12,
// DISP=(, CATLG),
// SPACE=(TRK, (%P17, %P18, %P19), RLSE),
// DCB=(DSORG=PO, RECFM=VB, LRECL=8356, BLKSIZE=8360)
//SYSOUT DD SYSOUT=%P14
//DBSYSPRT DD SYSOUT=%P14
//%Q11NAMLIB2 DD DSN=%Q12%Q13%Q01, DISP=SHR
//%Q14NAMLIB1 DD DSN=%Q15%Q16%Q02, DISP=SHR
//%Q17NAMLIB0 DD DSN=%Q18%Q19%Q03, DISP=SHR
//SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT, UNIT=%P13,
// SPACE=(TRK, (%Q25, %Q26, %Q27)),
// DCB=(DSORG=PO, RECFM=VB)
//SYSIN DD DSN=&&SYSIN, UNIT=%P13,
// SPACE=(TRK, (%Q30, %Q31))
//SYSUT1 DD DSN=&&SYSUT1, UNIT=%P13,
// SPACE=(TRK, (%Q28, %Q29))
//*****
//* << EXEC JSMDJ220 >> *
//*****
//COPYID EXEC PGM=JSMDJ220, COND=(0, LT), PARM=%P15
//PRJLIB DD DSN=%P11.MASTER.DATA, DISP=SHR
//SYSOUT DD SYSOUT=%P14
//***** UNCATLG *****
//UNCAT2 EXEC PGM=KDJBR14, REGION=1024K, COND=(4, GT, COPYID)
//%P15 DD DSN=%P11.DBSP.%P15, UNIT=%P13,
// DISP=(OLD, UNCATLG, UNCATLG), VOL=SER=%P12
//***** DELETE *****
//DELETE2 EXEC PGM=KDJBR14, REGION=1024K, COND=(4, GT, COPYID)
//%P15 DD DSN=%P11.DBSP.%P15, UNIT=%P13,
// DISP=(OLD, DELETE, UNCATLG), VOL=SER=%P12
//

```

図9.13 COPY句環境セットアップ用JCL : @JCL2

```

%JOB
%JO1
%JO2
%JO3
//*****
//* PRINT JOB 'PROJECT.MASTER.DATA(@JCL3)' *
//*****
//JOB LIB DD DSN=%P23.DBSPV31.LOAD,DISP=SHR
// DD DSN=@DSN01@,DISP=SHR ①
// DD DSN=%P02,DISP=SHR
// DD DSN=%P05,DISP=SHR
// DD DSN=%P07,DISP=SHR
//*****
//* << EXEC JSMDBM01 >> *
//*****
//DBSPPRNT EXEC PGM=JSMDBM01,REGION=2048K,
// PARM='%P21*%P22*%P23*%P24*%P25*%P11*%P12'
//AIMPED DD SUBSYS=(AIM,%P55,%P20,%P56),DISP=SHR AIM V12 では(AIM,%P55,%P20)
//PRINTF DD DSN=%P21.DBSP.%P26,DISP=(OLD,DELETE,DELETE)
//DBFMTTBL DD DSN=%P23.DBSP.DBFMTTBL,DISP=SHR
//DBACSTBL DD DSN=%P23.DBSP.DBACSTBL,DISP=SHR
//RACVTTBL DD DSN=%P23.DBSP.RACVTTBL,DISP=SHR
//SYSOUT DD SYSOUT=%P43
//DUMPLST DD SYSOUT=%P43
//PROOFLST DD SYSOUT=%P43
//

```

図9.14 印刷処理用JCL :@JCL3

```

%JOB
%JO1
%JO2
%JO3
//*****
//* YPS ENVIRONMENT CREATE JOB 'DBSP.MASTER(@JCL4)' *
//*****
//JOB LIB DD DSN=@DSN01@,DISP=SHR ①
// DD DSN=%P02,DISP=SHR
// DD DSN=%P05,DISP=SHR
// DD DSN=%P07,DISP=SHR
// DD DSN=%P09,DISP=SHR
//*IMAGELIB DD DSN=@DSN29@,DISP=SHR ②
//*****
//UNCATL EXEC PGM=KDJBR14,REGION=1024K
//%P15 DD DSN=%P11.DBSP.%P15,UNIT=%P13,
// DISP=(OLD,UNCATLG,UNCATLG),VOL=SER=%P12
//*****
//DELETE EXEC PGM=KDJBR14,REGION=1024K
//%P15 DD DSN=%P11.DBSP.%P15,UNIT=%P13,
// DISP=(OLD,DELETE,UNCATLG),VOL=SER=%P12
//*****
//UNCATL EXEC PGM=KDJBR14,REGION=1024K
//%P15 DD DSN=%P11.DBSP.YCB.%P15,UNIT=%P13,
// DISP=(OLD,UNCATLG,UNCATLG),VOL=SER=%P12
//*****
//DELETE EXEC PGM=KDJBR14,REGION=1024K
//%P15 DD DSN=%P11.DBSP.YCB.%P15,UNIT=%P13,
// DISP=(OLD,DELETE,UNCATLG),VOL=SER=%P12
//*****
//* << EXEC JSMDJ240 >> *
//*****
//YPSCOB EXEC PGM=JSMDJ240,REGION=4096K
//*
//YMEMTBL DD DSN=%P11.DBSP.YME.%P15,DISP=(OLD,DELETE,DELETE)
//*
//*----- YPSプログラム仕様書データセット -----*
//SYSYIN DD DSN=%P23%P24%P10,
// DISP=SHR,UNIT=%P13%P25%P26%P27
//*
//*----- 外部構文定義仕様書データセット -----*
//SYSYLIB DD DSN=@DSN17@,DISP=SHR ③
//*
//*----- 外部日本語名標宣言仕様書データセット -----*
//SYSYJLIB DD DSN=@DSN18@,DISP=SHR ④
//*

```

図9.15 YPS 構造体環境セットアップ用JCL :@JCL4 (1 / 2)

```

// *----- インクルード仕様書データセット -----*
//SYSYINC DD DSN=%P23%P24%P10,
//          DISP=SHR, UNIT=%P13%P25%P26%P27
// *
// *----- 翻訳オプション指定データセット -----*
//SYSYOPT DD DSN=%P11. MASTER. DATA (@YPSYOPT), DISP=SHR
// *
// *----- COBOL原始プログラムデータセット -----*
//SYSIN DD DSN=%P11. DBSP. YCB. %P15,
//          DISP=(, CATLG), UNIT=%P13, VOL=SER=%P12,
//          SPACE=(TRK, (%Q32, %Q33, %Q34), RLSE),
//          DCB=(DSORG=PO, RECFM=VB, LRECL=255, BLKSIZE=2554)
// *
// *----- YPS翻訳リストデータセット -----*
//SYSYPRT DD SYSOUT=%P14, FCB=STD3, CHARS=YPSA -----⑤, ⑥
// *
// *----- メッセージデータセット -----*
//SYSTEM DD SYSOUT=%P14, FCB=STD3 -----⑤
// *
//SYSYUT1 DD UNIT=%P13, DISP=NEW, SPACE=(TRK, (9, 9), RLSE)
// *
//SYSOUT DD SYSOUT=%P14
//*****
// * << EXEC JSMDJ200 >> *
//*****
//DBFMTTBL EXEC PGM=JSMDJ200, REGION=3072K, PARM=' YPS', COND=(0, LT)
// *STPCAT DD DSN=@DSN09@, DISP=SHR -----⑦
//MEMTBL DD DSN=%P11. DBSP. MEM. %P15, DISP=(OLD, DELETE, DELETE)
//PRJLIB DD DSN=%P11. MASTER. DATA, DISP=SHR
//RCOPYLIB DD DSN=%P11. DBSP. YCB. %P15, DISP=(OLD, DELETE, DELETE)
//DBFMTTBL DD DSN=%P11. DBSP. %P15, UNIT=%P13, VOL=SER=%P12,
//          DISP=(, CATLG),
//          SPACE=(TRK, (%P17, %P18, %P19), RLSE),
//          DCB=(DSORG=PO, RECFM=VB, LRECL=8356, BLKSIZE=8360)
//SYSOUT DD SYSOUT=%P14
//DBSYSPRT DD SYSOUT=%P14
//%Q11NAMLIB2 DD DSN=%Q12%Q13%Q01, DISP=SHR
//%Q14NAMLIB1 DD DSN=%Q15%Q16%Q02, DISP=SHR
//%Q17NAMLIB0 DD DSN=%Q18%Q19%Q03, DISP=SHR
//SYSDCT DD DSN=&&SYSDCT, UNIT=%P13,
//          SPACE=(TRK, (%Q25, %Q26, %Q27)),
//          DCB=(DSORG=PO, RECFM=VB)
//SYSIN DD DSN=&&SYSIN, UNIT=%P13,
//          SPACE=(TRK, (%Q30, %Q31))
//SYSUT1 DD DSN=&&SYSUT1, UNIT=%P13,
//          SPACE=(TRK, (%Q28, %Q29))
//*****
// * << EXEC JSMDJ220 >> *
//*****
//COPYID EXEC PGM=JSMDJ220, COND=(0, LT), PARM=%P15
//PRJLIB DD DSN=%P11. MASTER. DATA, DISP=SHR
//SYSOUT DD SYSOUT=%P14
//***** UNCATLG *****
//UNCAT2 EXEC PGM=KDJBR14, REGION=1024K, COND=(4, GT, COPYID)
//%P15 DD DSN=%P11. DBSP. %P15, UNIT=%P13,
//          DISP=(OLD, UNCATLG, UNCATLG), VOL=SER=%P12
//***** DELETE *****
//DELETE2 EXEC PGM=KDJBR14, REGION=1024K, COND=(4, GT, COPYID)
//%P15 DD DSN=%P11. DBSP. %P15, UNIT=%P13,
//          DISP=(OLD, DELETE, UNCATLG), VOL=SER=%P12
//

```

図9.15 YPS 構造体環境セットアップ用JCL : @JCL4 (2 / 2)

-CURRENCY	¥	-----①
-DPOINT	P	-----②
-APQUOTE	Q	-----③
-RSV	ALL	-----④
-ALPHAL	YES	-----⑤
-RECNAME	I	-----⑥
-USERS		-----⑦
-END		

図9.16 COBOL85 翻訳オプション : @OPTION

```

%JOB
%J01
%J02
%J03
//*****
//* UTILITY LIST PRINT JOB 'DBSP.MASTER(@PRINT1)' *
//*****
//JOB LIB DD DSN=@DSN01@, DISP=SHR _____①
//PRINT EXEC PGM=JSMDX230
//SYSIN1 DD DSN=%P11.DBSP.SYSPRINT, UNIT=%P13, DISP=(OLD, DELETE),
// DCB=RECFM=FBA
//SYSOUT1 DD SYSOUT=%P12
//SYSOUT DD SYSOUT=%P12
//

```

図9.17 ユーティリティ処理結果印刷用JCL : @PRINT1

```

%JOB
%J01
%J02
%J03
//*****
//* LOGOUT LIST PRINT JOB 'PROJECT.MASTER.DATA(@PRINT2)' *
//*****
//JOB LIB DD DSN=@DSN01@, DISP=SHR _____①
//LOGLST EXEC PGM=JSMDX230
//SYSIN1 DD DSN=%P11.DBSP.LOGLST, UNIT=%P13,
// DCB=RECFM=FBA, DISP=(OLD, DELETE, KEEP)
//SYSOUT1 DD SYSOUT=%P16
//SYSOUT DD SYSOUT=%P16
//

```

図9.18 ログリスト印刷用JCL : @PRINT2

	(a)	(b)	(c)	
-SETUPLST	020	020		①
-PRJLIB	020	020	030	②
-SORTWORK	020	020		③
-ADLCNTL	020	020	030	④
-DBACSTBL	020	020	030	⑤
-DBFMTTBL	020	020	030	⑥
-RCOPYLIB	020	020	030	⑦
-RACVTTBL	020	020	030	⑧
-DBUTYLIB	020	020	030	⑨
-SCHDATA	020	020		⑩
-WORK1	020	020	030	⑪
-WORK2	020	020	030	⑫
-SYSDCT	050	050	050	⑬
-SYSIN	020	020		⑭
-SYSUT1	020	020		⑮

図9.19 環境セットアップ用ファイル容量 : @SPACES

	(a)	(b)	
-FILECAR	001	005	
-FILEMSG	001	005	
-FILELST	001	005	
-LOGLST	001	005	①
-DUMPLST	001	005	②
-PROOFLST	001	005	③
-PRINTF	001	005	④
-END			

図9.20 データベース更新・表示用ファイル容量 : @SPACEU

-A1MLIB	@DSN24@	_____	①
-COBLIB	@DSN06@	_____	②
-1PFLIB	@DSN19@	_____	③
-GEMLIB	@DSN20@	_____	④
-AJSLIB	@DSN22@	_____	⑤
-UTYLIB	@DSN21@	_____	⑥
-PRECOB	@DSN25@	_____	⑦
-SORTLB	@DSN26@	_____	⑧
-YPSCOB	@DSN27@	_____	⑨
-END			

図9.21 必要ソフトウェアの定義 : @SYSTEM

-CURRENCY	¥	_____	①
-DPOINT	P	_____	②
-APQUOTE	Q	_____	③
-RSV	ALL	_____	④
-ALPHAL	YES	_____	⑤
-RECNAME	I	_____	⑥
-USERS		_____	⑦
-END			

図9.22 COBOL85 翻訳オプション (YPS 用) : @YPSOFT

```

NOCHECK NOTURB STATIS
NOJOIN NOOBJECT FLAG(1) TERM NOYDCT LANGLVL(V11) NOLCHECK
NOCOMMENT PREFIX(JVV) NOUSING NOYPRINT NOXREF NOTEST NOCOVERAGE
APOST
INCDD
ANCONV
LINECOUNT(60)
YPSSRC(1)

```

図9.23 YPS/COBOL 翻訳オプション : @YPSYOPT

```

%JOB
%JO1
%JO2
%JO3
//*****
//* DB CREATE BATCH JOB 'PROJECT.MASTER.DATA(DBCREATE)' *
//*****
//JOBLIB DD DSN=%P11.DBSPV31.LOAD,DISP=SHR
//* DD DSN=@DSN23@,DISP=SHR _____①
// DD DSN=@DSN01@,DISP=SHR _____②
// DD DSN=%P02,DISP=SHR
// DD DSN=%P05,DISP=SHR
// DD DSN=%P06,DISP=SHR
// DD DSN=%P07,DISP=SHR
//*****
//* << EXEC JSMDBM01 >> *
//*****
//DBCREATE EXEC PGM=JSMDBM01,REGION=3072K,
// PARM='X*F*%P11'
//FILELIB DD DSN=#####.#####.#####,DISP=SHR _____③
//FILEPARA DD *
MEMBER=NAME,OPTION,JEF=TYPE _____④
//A1MPED DD SUBSYS=(AIM,%P55,%Q20,%Q21),DISP=SHR _____AIM V12 では(AIM,%P55,%Q20)
//ADLCTL DD DSN=%P11.DBSP.ADLCTL,DISP=SHR
//DBFMTTBL DD DSN=%P11.DBSP.DBFMTTBL,DISP=SHR
//DBACSTBL DD DSN=%P11.DBSP.DBACSTBL,DISP=SHR
//RACVTTBL DD DSN=%P11.DBSP.RACVTTBL,DISP=SHR
//FILELST DD DSN=&&FILELST,UNIT=%P23,
// SPACE=(TRK,(%P12,%P13))
//FILECARD DD SYSOUT=*
//FILEMSG DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//JSMYLO01 DD SYSOUT=*
//

```

図9.24 一括更新処理用JCL : DBCREATE

```

PROC 0 PRJ(&SYSUID)
TIME
CONTROL NOCONLIST NOMSG NOLIST
PROFILE WTPMSG MSGID
SET &LOAD=@DSN01@ _____①
SET &ANMSG=@DSN10@ _____②
SET &ANMENU=@DSN02@ _____③
SET &JEFMSG=@DSN13@ _____④
SET &JEFMENU=@DSN03@ _____⑤
SET &MASTER=@DSN16@ _____⑥
SET &COBLIB=@DSN06@ _____⑦
SET &IPFLIB=@DSN19@ _____⑧
SET &GEMLIB=@DSN20@ _____⑨
SET &UTYLIB=@DSN21@ _____⑩
SET &ADJUST=@DSN22@ _____⑪
SET PRJ=&PRJ
FREE F(SYSIN SYSPRINT SYSOUT SYSMENU AMSG JMSG MSTLIB)
DEL '&PRJ..DBSP.SCHDATA'
DEL '&PRJ..DBSP.SUBDATA'
DEL '&PRJ..DBSP.SCHDATA' NOSCRATCH
DEL '&PRJ..DBSP.SUBDATA' NOSCRATCH
SET &MAXCC=0
SET &LASTCC=0
CALL '&LOAD(JSMDX010)'
IF &MAXCC ^=0 THEN DO
    SET &TYPE=0
    END
    ELSE DO
    SET &TYPE=1
    END
CALL '&LOAD(JSMDZFED)'
LIB '&COBLIB'
ALLOC DA(*) F(SYSOUT) SHR
WRITE ~~~~~
CALL '&LOAD(JSMDPRFO)' 'TD'
WRITE _____ (AIM V20) _____ AIM V12では(AIM V12)
WRITE
WRITE ENVIRONMENT SETUP AND UTILITY SYSTEM
WRITE
WRITE PROJECT &PRJ
WRITE USER-ID &SYSUID
WRITE START &SYSTIME &SYSDATE
WRITE ~~~~~
GOO: IF &TYPE=1 THEN DO
    ALLOC DA('&ANMSG') F(AMSG) SHR REU
    ALLOC DA('&ANMENU') F(SYSMENU) SHR REU
    END
    ELSE DO
    ALLOC DA('&JEFMSG') F(JMSG) SHR REU
    ALLOC DA('&JEFMENU') F(SYSMENU) SHR REU
    END
GO1: ALLOC DA('&MASTER') F(MSTLIB) SHR REU
ALLOC DA(*) F(SYSOUT) SHR
LIB ('&LOAD' +
    '&COBLIB' +
    '&IPFLIB' +
    '&GEMLIB' +
    '&UTYLIB' +
    '&ADJUST')
CALL '&LOAD(JSMDOMAT)' '+,SYSDA &TYPE&PRJ'
G99: FREE F(SYSIN SYSPRINT SYSOUT SYSMENU AMSG JMSG MSTLIB)
LIB
PROFILE NOWTPMSG
WRITE
WRITE ENVIRONMENT SETUP AND UTILITY SYSTEM END
WRITE
EXIT

```

図9.25 環境セットアップ起動用コマンドプロシジャ：DBSETUP

```

PROC 0
TIME
CONTROL MAIN NOCONLIST NOMSG NOLIST
PROFILE WTPMSG
SET &LOAD=@DSN01@ _____①
SET &ANMSG=@DSN10@ _____②
SET &ANMENU=@DSN02@ _____③
SET &JFMSG=@DSN13@ _____④
SET &JFMENU=@DSN03@ _____⑤
SET PRJ=&SYSUID
FREE F (PRJLIB ADLCNTL DBACSTBL DBFMTTBL RACVTTBL LOGLST +
      SYSIN SYSOUT SYSMENU AMSG JMSG)
CALL '&LOAD(JSMDZFED)'
LIB '%P02'
ALLOC DD (SYSOUT) DS(*) REU
WRITE
~~~~~
CALL '&LOAD(JSMDPRFO)' 'TD'
WRITE
WRITE (AIM V20) _____ AIM V12では(AIM V12)
WRITE
WRITE DATABASE DISPLAY AND UPDATE SYSTEM
WRITE
WRITE PROJECT %P11
WRITE USER-ID &SYSUID
WRITE START &SYSTIME &SYSDATE
WRITE
~~~~~
SET &MAXCC=0
SET &LASTCC=0
CALL '&LOAD(JSMDX010)'
CONTROL MAIN NOCONLIST MSG NOLIST
IF &MAXCC ^=0 THEN DO
      SET &TYPE=0
      ALLOC DA ('&JFMSG') F (JMSG) SHR REU
      ALLOC DA ('&JFMENU') F (SYSMENU) SHR REU
      END
      ELSE DO
      SET &TYPE=1
      ALLOC DA ('&ANMSG') F (AMSG) SHR REU
      ALLOC DA ('&ANMENU') F (SYSMENU) SHR REU
      END
G01: ALLOC DA ('%P11.MASTER.DATA') F (PRJLIB) SHR REU
      ALLOC DA ('%P11.DBSP.ADLCNTL') F (ADLCNTL) SHR REU
      ALLOC DA ('%P11.DBSP.DBACSTBL') F (DBACSTBL) SHR REU
      ALLOC DA ('%P11.DBSP.DBFMTTBL') F (DBFMTTBL) SHR REU
      ALLOC DA ('%P11.DBSP.RACVTTBL') F (RACVTTBL) SHR REU
      ALLOC DA (*) F (SYSOUT)
      AIMALLOC PED (%P55) APG (%Q20) DID (%Q21) _____AIM V12 ではPED (%P55) APG (%Q20)
      IF &LASTCC=0 THEN DO
      LIB ('&LOAD' +
            '%P02' +
            '%P03' +
            '%P05')
G98: CALL '%P11.DBSPV31.LOAD(JSMDBMAT)' +
            '&PRJ*&TYPE*%P11'
      AIMFREE PED (%P55)
      END
CONTROL MAIN NOCONLIST NOMSG NOLIST
FREE F (PRJLIB ADLCNTL DBACSTBL DBFMTTBL RACVTTBL LOGLST +
      SYSIN SYSOUT SYSMENU AMSG JMSG)
FREE DA ('%P11.DBSPV31.LOAD')
LIB
PROFILE NOWTPMSG
WRITE
WRITE DATABASE DISPLAY AND UPDATE SYSTEM END
WRITE
EXIT

```

図9.26 データベース更新・表示起動用コマンドプロシジャ：DBUPDATE


```

PROC 0
TIME
CONTROL NOCONLIST NOMSG NOLIST
PROFILE WTPMSG MSGID
SET &LOAD=@DSN01@ _____①
SET &COBLIB=@DSN06@ _____②
FREE F(SYSOUT)
CALL '&LOAD(JSMDZFED)'
```

WRITE
WRITE SIMPLIA / プロフィール情報出力
WRITE

```

ALLOC DD(SYSOUT) DS(*) REU
LIB '&COBLIB'
CALL '&LOAD(JSMDPRFO)' 'PD'
FREE F(SYSOUT)
FREE DA('&LOAD')
LIB
EXIT
```

図9.27 プロフィール参照用コマンドプロシジャ : PROFILE

```

//U00614T JOB , CLASS=A, MSGCLASS=R, NOTIFY=U00614 _____JOB 文
//JOBPROC DD DSN=@DSN16@, DISP=SHR _____①
//*****
//* SIMPLIA/TF-DBSP プロジェクトカンリジ ヨウホウ コンバート JCL *
//*****
//CONVERT EXEC PROC=PROCCONV,
// UNIT=SYSDA, _____②
// MASTNEW=@DSN16@, _____①
// LOADNEW=@DSN01@, _____③
// COBLIB=@DSN06@, _____④
// MASTOLD=@DSN30@, _____⑤
// LOADOLD=@DSN31@, _____⑥
//STEP01.SYSIN DD *
COPY INDD=SYSUT1, OUTDD=SYSUT2
SELECT MEMBER=JSMDX000
/*
//
```

図9.28 プロジェクト管理情報コンバート用JCL : @CONVERT

```

//U00614T JOB , CLASS=A, MSGCLASS=R, NOTIFY=U00614 _____JOB 文
//JOBPROC DD DSN=@DSN16@, DISP=SHR _____①
//JOBLIB DD DSN=@DSN01@, DISP=SHR _____②
// DD DSN=@DSN06@, DISP=SHR _____③
//*****
//* SIMPLIA/TF-DBSP プロジェクトファイル サクジ ヨ JCL *
//*****
//DELPRJ EXEC PROC=PROCDEL,
// PROJECT=U00614, _____④
// MASTER=@DSN16@, _____⑤
//
```

図9.29 プロジェクト削除用JCL : @DELETE

9.6 DBSPの稼動確認

稼動確認用提供スキーマを使用し、DBSPの稼動確認を行う。

(1) 稼動確認用提供スキーマの修正

図9.30に示す稼動確認用提供スキーマ（DBSPマスタファイルのメンバ：INSCHKSC）を修正する。

下線部は修正箇所であり、修正箇所の内容を以下に示す。

- ① スキーマグループ名
- ② ネットワークデータベース用データセット名
- ③ ネットワークデータベース用データセットを作成するボリューム通し番号
- ④ ネットワークデータベース用データセットを作成するUNITタイプ

```

*****
**  INSTALL CHECK SCHEMA                               **
*****
SCHEMA NAME      IS      INSCHKSC      ;
SCHEMA GROUP    NAME IS      N3SGO      ;
DATE-WRITTEN     IS      96-05-01.      ;
*
RECORD NAME     IS      A001REC        ;
LOCATION         MODE IS      RANDOM      ;
                USING  A1-ITEM01  Duplicates.
*
*      1  A001REC.
          2  A1-ITEM01      ; PIC  9(5).
          2  A1-ITEM02      ; PIC  9(3).
          2  A1-ITEM03      ; PIC  X(1).
          2  A1-ITEM04      ; PIC  X(8).
          2  A1-ITEM05      ; PIC  X(3).
          2  A1-ITEM06      ; PIC  X(30).
*
RECORD NAME     IS      A002REC.
*
*      1  A002REC.
          2  A2-ITEM01      ; PIC  X(8).
          2  A2-ITEM02      ; PIC  X(8).
          2  A2-ITEM03      ; PIC  S9(04).
          2  A2-ITEM04      ; PIC  X(30).
*
SET            NAME IS      SET00001    ;
              OWNER IS      A001REC     ;
              MEMBER IS      A002REC.
*
RANGE NAME     IS      RA1RENTA ;
RECORD        IS      A001REC ;
PRIME         IS      5 ;
LOGICAL       PAGE IS      2.
*
RANGE NAME     IS      RA2RENTA ;
RECORD        IS      A002REC ;
PRIME         IS      1 ;
LOGICAL       PAGE IS      2 ;
TYPE          IS      CYCLE.
*
DATASET        NAME IS      U00615.INSCHKSC ;
              PAGE CONTAINS 13400.
*
              VOLUME IS      SF1004 ;
              UNIT  NAME IS      F6425 ;
LOCATE         RA1RENTA,
              RA2RENTA.
END.

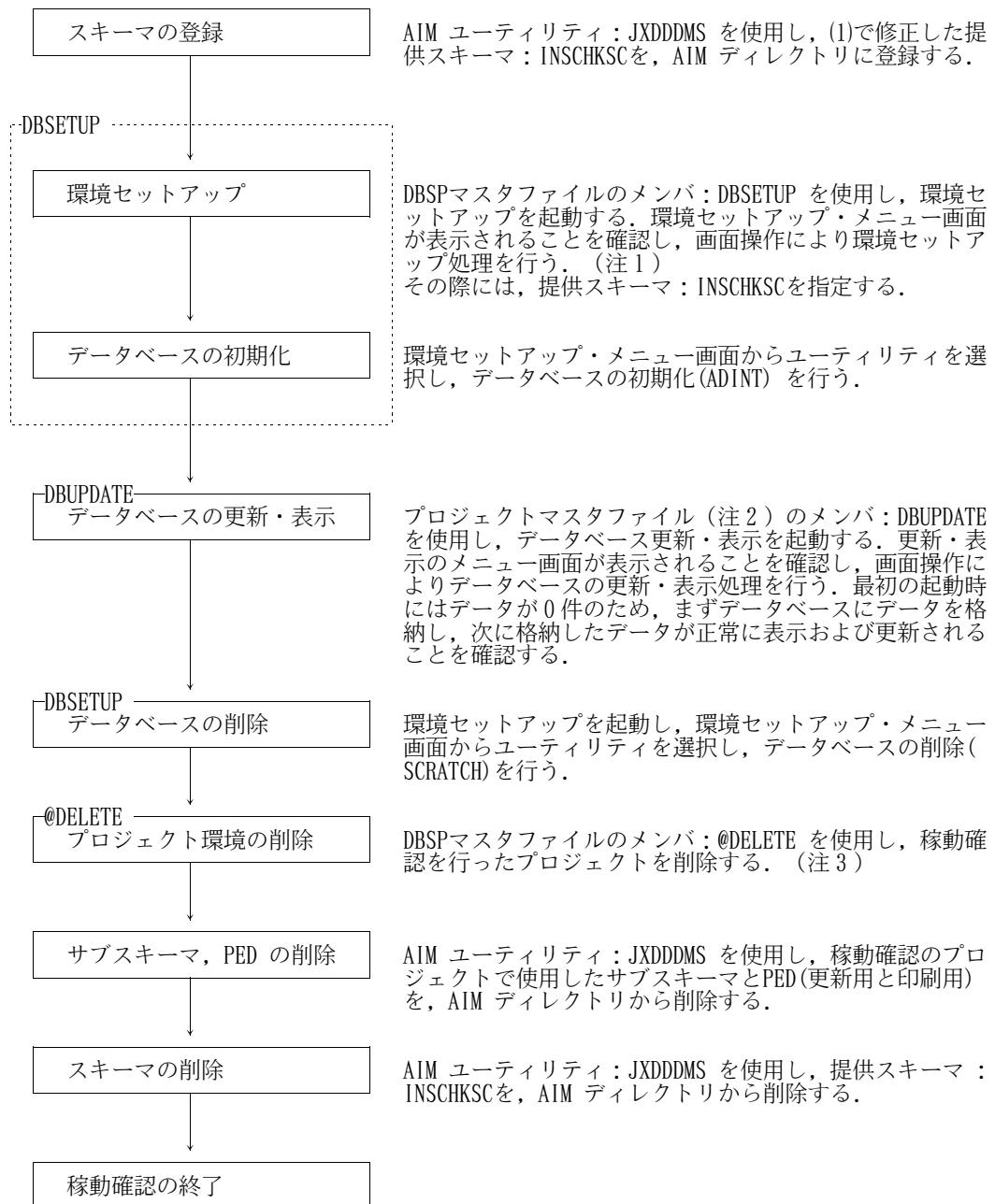
```

図9.30 稼動確認用提供スキーマ：INSCHKSC

(2) 実施手順

以下に示すフローどおりにDBSPの稼動確認を実施する。

なお、DBSPの詳しい操作方法は、“3. 適用マニュアル”に記載のマニュアルを参照されたい。



注1) IDV/L のCOPY句環境を流用する場合(◆参照 → 5.4.1)またはIDV/L のプロジェクト環境を流用する場合(◆参照 → 5.5.1)には, IDV/L で使用していたプロジェクト名およびプロジェクトで使用していたサブスキーマ名とPED名は使用してはならない. 使用した場合には, IDV/L のプロジェクト環境が稼動確認用の環境と置き換わり, IDV/L の環境が流用できなくなるので注意されたい.

注2) 環境セットアップ後に生成されるプロジェクト名.MASTER.DATAを指す.

注3) データベース更新・表示において, ユーザID単位に必ず割り当てられるワークファイルのユーザID.DBSP.LOGLSTは削除されないため, 別途削除を行う.

10. プログラム修正事項

前回提供のソフトウェアに対して以下のプログラム修正が行われている。

ただし、機能追加または強化に伴う修正内容を除く。(◆参照 → 4)

表10.1 プログラム修正事項(続く)

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
1	対象レコード入力画面、メンバレコード入力画面、オーナレコード入力画面および一括更新処理の制御文において、第1階層にシステムエントリを指定(拡張インデックス指定は除く)した場合、一度全件を読み込んだ後に該当レコードに位置付けを行っている。 (対処) 全件読み込みを無くし、該当レコードへの位置付けを行うように修正した。	JSMSD070
2	データ更新画面からSTORE コマンドを投入して格納データ入力画面に遷移した後、PF3 キーでSTORE コマンドを取り消した場合、データ更新画面に戻るとデータが初期値で表示される。 (対処) PF3 キーでSTORE コマンドを取り消した場合、データ更新画面に戻るとSTORE コマンド投入時のデータが表示されるように修正した。	JSMDB200
3	UTILITY-インデックステーブルのルート情報入力1画面において、オプション“D”を指定した場合、“データセットの削除完了”のメッセージが表示されてもオプション欄がクリアされない。 (対処) “データセットの削除完了”のメッセージが表示されたとき、オプション欄がクリアされるように修正した。	JSMDU320
4	一括更新処理において、メンバレコードを持つオーナレコードに対してERASE ONLYの指定を行うと、DBSCB=03, DBECB=00となりレコードは削除されないが、一括更新結果リストのERASE NORMAL件数がカウントされ削除されたことになっている。 (対処) メンバレコードを持つオーナレコードに対してERASE ONLYの指定を行った場合、DBSP9032-Sのメッセージが出力され処理が中止されるように修正した。	JSMDFO20 JSMDFO40
5	アイテム名選択画面において、アイテム数が100以上50の倍数のとき、集団項目を選択し、その集団項目配下には選択していないアイテムが最終まで51以上存在する場合、ENTER キーを押下すると処理中のままになる。 (対処) アイテム数が100以上50の倍数の場合でも集団項目のみを選択できるように修正した。	JSMSD220
6	COPY環境識別名に“ADLSOC”を指定すると、プロジェクトマスタファイルのメンバ:ADLSOCの内容がCOPY環境識別名の関連情報に置き換わる。 (対処) 環境識別名の予約語の見直しを行い、COPY句またはYPS 構造体の環境セットアップにおいて、環境識別名に“ADLSOC”を指定した場合、エラーになるように修正した。	JSMD0040 JSMD0046
7	レコードの更新処理において、RCOPY コマンド投入により孤立レコードが発生した場合、孤立レコード発生の警告メッセージが表示されない。 (対処) 孤立レコード発生の警告メッセージが表示されるように修正した。	JSMDB240
8	対象レコード入力画面において、NEXTまたはPRIOR コマンドが“コマンドの投入契機誤り”となる場合、コマンド欄は高輝度になるが入力したコマンドがクリアされる。 (対処) 対象レコード入力画面、メンバレコード入力画面またはオーナレコード入力画面において、メッセージが表示された場合、入力したコマンドが残るように修正した。	JSMDB110
9	セット構造の変更において、リング形態のメンバレコードをリスト形態のセットに対して結合した場合、メンバレコード内容表示画面に復帰後、NEXTコマンドを投入するとDBSCB=00 DBECB=31の重症エラーになる。 (対処) 上記条件でNEXTコマンドが正常動作するように修正した。	JSMDB140

表10.1 プログラム修正事項（続く）

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
1 0	拡張インデックスを持つシステムエントリの場合、拡張インデックスで位置付けた後にRCOPY コマンドを投入すると、孤立レコードになる。 (対処) 拡張インデックスで位置付けた後にRCOPY コマンドを投入しても孤立レコードにならないように修正した。	JSMDB240
1 1	ユーティリティなどの一覧画面において、明細の数がちょうど1画面分の場合、PF8 キーの押下で最終明細が画面の先頭に表示されない場合がある。 (対処) 一覧画面に表示されている明細の数がちょうど1画面分の場合、PF8 キーを押下すると最終明細が画面の先頭に表示されるように修正した。	JSMDU100 JSMDU310 JSMDU110 JSMDU330 JSMDU200 JSMDU420 JSMDU210 JSMDS100 JSMDU300
1 2	COPY句メンバ名の入力画面、YPS 構造体メンバ名の入力画面またはHELP・レコード名一覧画面において、レコード名の件数が 999件の場合、最終ページが正しく表示されない。 (対処) レコード名の件数が 999件の場合でも最終ページが正しく表示されるように修正した。	JSMD0040 JSMD0046 JSMDS100
1 3	英語画面において重症エラーが発生した場合、メッセージのDBSCB およびDBECB が3桁で表示される。例：DBSCB =00X DBECB =62X (対処) DBSCB とDBECB が2桁で表示されるように修正した。	JSMDX181
1 4	COPY句データセットメニュー画面において、COPY環境識別名の登録数が制限（50個）を超えてもエラーにならない場合がある。 (対処) COPY句または YPS構造体環境セットアップバッチジョブにおいて、環境識別名が既に制限数まで登録されていた場合は、DBSPH008-Uのメッセージが出力されるように修正した。	JSMDJ220
1 5	ユーティリティにおいて、LOCATEコマンドが誤動作する場合がある。 例：コマンド名が“LOCATE”の場合、コマンド欄の5桁目以降(TE～)がアイテム名とみなされる。 (対処) LOCATEコマンドが正常動作するように修正した。	JSMDU100 JSMDU310 JSMDU200 JSMDU330 JSMDU300 JSMDU420
1 6	UTILITY-インデックス情報初期化の情報確認画面において、サブレンジ分割されたインデックス用データセットのシステム算出容量は常に1になる。 (対処) サブレンジ分割されたインデックス用データセットのシステム算出容量が正しく表示されるように修正した。	JSMDU210 JSMDU540
1 7	UTILITY-初期化対象データセット選択画面またはUTILITY-インデックステーブルの創成モード選択画面において、オプション'1'を指定してエラーになった場合、オプション欄がクリアされる。 (対処) オプション欄はクリアされず、高輝度になるように修正した。	JSMDUM01
1 8	環境セットアップのバッチジョブにおいて、DBSPA007-Eのメッセージ本文にプログラム名が出力されない。 (対処) DBSPA007-Eのメッセージ本文にプログラム名が出力されるように修正した。	JSMDJ170 JSMDJ220
1 9	アイテム名選択画面以外でCLEAR コマンドの簡略形“CL”を投入すると“コマンド名不当”になる。 (対処) “CL”がCLEAR コマンドとして認識されるように修正した。	JSMDX240
2 0	アイテム名選択画面において、LASTコマンドが“コマンド名不当”になる。 (対処) アイテム名選択画面で無効なコマンドの場合は“コマンドの投入契機誤り”，DBSPのコマンド以外は“コマンド名不当”になるように修正した。	JSMDX1TM

表10.1 プログラム修正事項（続く）

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
2 1	データ更新画面または格納データ入力画面において、編集用コマンドを投入した後、RCANCEL コマンドが有効にならない。 (対処) 編集用コマンドを投入した後もRCANCEL コマンドが有効になるように修正した。	JSMDB400
2 2	メンバレコード指定画面において、“メンバレコードなし”となった場合、アイテム指定欄の上段のみ高輝度になり下段が高輝度にならない。 (対処) アイテム指定欄が高輝度になる場合は下段も高輝度になるように修正した。また、エラー表示を以下のように修正した。 － メンバレコードが1件も存在しない場合、“メンバレコードなし”となりメンバレコード名欄が高輝度になる。 － 件数指定の条件に一致しない場合、“件数が大きすぎる”となり件数指定欄が高輝度になる。 － アイテム指定の条件に一致しない場合、“該当レコードなし”となりアイテム指定欄が高輝度になる。	JSMDB142
2 3	一括更新処理において、DATA文またはCONNECT 文の記述に文法的な誤りがあると、結果リストに出力されない場合や重複して出力される場合がある。また、文法的な誤りがあっても処理が継続される場合がある。 (対処) 指定したとおりの制御文が結果リストに出力されるように修正した。また、制御文の指定に重大な誤りがある場合は処理が中止されるように修正した。	JSMDFO10
2 4	各画面において、PF12キーを押下するとき“=l.m.n”を指定しても各機能のメニュー画面に遷移する場合がある。 (対処) 各機能のメニュー画面でオプション“l.m.n”を指定した画面に遷移するように修正した。	JSMDX180
2 5	格納データ入力画面または被結合レコードデータ表示画面において、PF5 キーを押下しても“コマンドの投入契機誤り”のメッセージが表示されない場合がある。 (対処) PF5 キーを押下すると“コマンドの投入契機誤り”のメッセージが表示されるように修正した。	JSMDB400
2 6	一括更新処理において、格納対象レコードのセットタイプがリスト形態の場合、MODE文にモードを指定してもユーザ出口のサブ処理モードに通知されない。 (対処) 一括更新処理のMODE文にモードを指定した場合、ユーザ出口のサブ処理モードに通知されるように修正した。	JSMDFO20
2 7	一括更新処理において、データ制御文のITEM文のデータ値を複数行で指定するとき、継続指定がなく、ITEM長と一致していない場合、メッセージDBSP9019-Sの後に出力されるDBSP9025-SまたはDBSP9026-Sの行番号が6448となる。 (対処) 制御文の指定に重大な誤りがある場合は処理が中止されるように修正した。このため、メッセージDBSP9019-Sが出力された場合、他のメッセージは出力されない。	JSMDFO10
2 8	UTILITY-インデックス情報選択リスト画面にてインデックス用データセットを削除した後、UTILITY-IXGEN の対象ROUTE 選択画面に遷移すると、削除データセットに該当するROUTE の状態欄が空白になっていない。 (対処) UTILITY-IXGEN の対象ROUTE 選択画面において、削除データセットに該当するROUTE の状態欄は空白になるように修正した。	JSMDU210
2 9	対象レコード入力画面、メンバレコード入力画面またはオーナレコード入力画面において、コマンドのオペランドが正しくチェックされない。 例：不当なオペランドがエラーとならない。 (対処) コマンドのオペランドが正しくチェックされるように修正した。	JSMDB110

表10.1 プログラム修正事項（続く）

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
3 0	<p>一括更新処理において、CONNECT 文でリスト形態へのセット結合を行うと以下のメッセージが出力される。 JXHM021 ZO ERROR OCCURRED IN DBMS CONNECT 072-26B DBSP9021-E DB ACCESS ERROR DBSCB=00 DBECB=22 または DBSP9008-S COUNT OPTION: RELATIVE COUNT EXCEEDED (対処) CONNECT 文でリスト形態へのセット結合が行われた場合には、以下のメッセージが出力されるように修正した。 DBSP9017-S CONNECT OPTION: SET NAME ERROR</p>	JS MDF010
3 1	<p>拡張インデックス名選択リスト画面において、拡張インデックス名を選択することで遷移した対象レコード入力画面、メンバレコード入力画面またはオーナレコード入力画面から前画面（更新・表示のメニュー画面またはメンバレコード内容表示画面）に戻ると、レコードの更新またはセット構造の変更が正しく動作しない。例：対象レコード入力画面において、入力内容のチェックが行われない。データ更新画面に遷移できるが、レコード内容が表示されない。 (対処) 上記条件でもレコードの更新またはセット構造の変更が正しく動作するように修正した。</p>	JS MDB110
3 2	<p>一括更新処理において、エントリキーにより位置付けた可変型レコードの削除処理を行うと処理中のままになる。 (対処) 上記条件でも可変型レコードを削除できるように修正した。</p>	JS MDF010 JS MDF020
3 3	<p>可変型レコードの制御データ項目にOCCURS句が指定されている場合、OC CURS句の繰返し分が制御データ項目として認識されない。このためSTORE コマンドでは、OCCURS 1の領域分しか初期化（HIGH-VALUEクリア）されない。 (対処) 可変型レコードの制御データ項目にOCCURS句が指定されている場合、OC CURS句全体を制御データ項目として認識するように修正した。</p>	JS MDJ500
3 4	<p>環境セットアップにおいて、選択したスキーマが以下の条件の場合に、環境セットアップのバッチジョブがSOC7で異常終了する。 - 論理結合の結合レコードが定義されている。 - 論理結合の被結合レコードが定義されていない。 - セット構造が定義されていない。 (対処) 上記条件でも環境セットアップのバッチジョブが正常に処理されるように修正した。</p>	JS MDJ040
3 5	<p>アイテム種類にサブスキーマを選択した場合、STORE コマンドによりレコードの格納を行うとスキーマのフォーマットでデータが初期化される。また、可変型レコードの場合には、制御データ項目が初期化（HIGH-VALUEクリア）されない。 (対処) アイテム種類にサブスキーマを選択した場合、サブスキーマのフォーマットで初期化されるように修正した。また、可変型レコードの制御データ項目が初期化されるように修正した。</p>	JS MDB200
3 6	<p>対象レコード入力画面、メンバレコード入力画面、オーナレコード入力画面、検索条件入力画面、メンバレコードの検索条件入力画面またはオーナレコード検索条件入力画面において、アイテム指定による検索で指定された件数が存在しない場合、“該当レコードなし”のメッセージが出力される。また、検索条件入力画面、メンバレコードの検索条件入力画面またはオーナレコード検索条件入力画面から前画面（対象レコード入力画面、メンバレコード入力画面またはオーナレコード入力画面）に遷移して、“件数が大きすぎる”のメッセージが出力される場合、カーソルがコマンド欄に位置付く。 (対処) アイテム指定による検索で指定された件数が存在しない場合には、“件数が大きすぎる”のメッセージを出力するように修正した。また、前画面に遷移して“件数が大きすぎる”のメッセージを出力する場合には、件数指定の入力欄にカーソルが位置付くように修正した。</p>	JS MDB110

表10.1 プログラム修正事項（続く）

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
37	<p>ユーティリティ（ADINT, IXGEN）で使用するワークファイルの割当てボリューム通し番号に、データベースを作成するボリューム通し番号が使用される。 （対処） DBSPの環境生成メニュー画面で指定するワークファイル用のボリューム通し番号が使用されるように修正した。</p>	JSMDOM01 JSMDU110 JSMDU210 JSMDU330 JSMDU430 JSMDU570
38	<p>環境セットアップにおいて以下の操作を行った場合、対象サブスキーマが存在しないにも関わらず、ADL-サブスキーマ選択リスト画面に遷移する。 1) ADL-サブスキーマ使用選択画面にて、サブスキーマ：NOを指定しENTERキーを押下 2) DBSPの環境生成メニュー画面にて、PF3キーを押下 3) ADL-サブスキーマ使用選択画面にて、サブスキーマ：YES を指定しENTERキーを押下（ただし、メンバ名は省略すること） （対処） ADL-スキーマ使用選択画面において、対象サブスキーマが存在しない場合には、ADL-サブスキーマ選択リスト画面に遷移しないように修正した。</p>	JSMD0025
39	<p>XSP において、ログ情報ファイル（LOGLST）の割当てに失敗した場合、以下のメッセージが出力される。 KEQ56712I INVALID KEYWORD, NOHOLD （対処） ログ情報ファイルの割当てにおいて、上記メッセージが出力されないように修正した。</p>	JSMDBM02
40	<p>PRINT コマンドのオプション1による印刷を49回繰り返すと、以下のDISPLAY メッセージが出力される。 XSMDX270 RCNTL-PROC ADDR IS NOT FOUND. R-MEMBER (xxxxxxx) XSMDX270 CCNTL-PROC ADDR IS NOT FOUND. DISPLAY メッセージが出力された後、再度PRINT コマンドのオプション1による印刷を行うと以下のDISPLAY メッセージと“レコード名不当”のメッセージが出力され、プリント対象レコード入力画面からメンバ印刷の検索条件入力画面に遷移できない。 XSMDX270 RCNTL-PROC ADDR IS NOT FOUND. R-MEMBER (xxxxxxx) XSMDX270 RCNTL-PROC ADDR IS NOT FOUND. R-MEMBER (xxxxxxx) （対処） PRINT コマンドのオプション1による印刷を、繰返し（49回以上）行なえるように修正した。</p>	JSMDB320
41	<p>以下の条件の場合に、REDEFINES コマンドを投入すると“オペランド誤り”のメッセージが出力される。 - REDEFINES 句による再定義が入れ子になっている。 - 入れ子のREDEFIENS 句を展開させる。 - REDEFINES コマンドは基本アイテム名を指定する。 （対処） 入れ子の再定義を展開する場合、REDEFINES コマンドに基本アイテム名を指定できるように修正した。</p>	JSMDXSCD
42	<p>データ更新画面よりSTOREコマンドの投入で遷移した格納データ入力画面において、PF3キーを押下して格納処理を中断すると、再定義項目が正しく表示されない。 例：基本アイテム名と再定義アイテム名の両方が表示される。 （対処） 格納データ入力画面よりPF3 キーの押下で格納処理を中断した場合、データ更新画面における再定義項目は格納データ入力画面の表示状態が保持されるように修正した。</p>	JSMDB130
43	<p>アイテム名選択画面において、コマンドのエラーになった場合、入力したコマンドが左詰めされる。 （対処） エラーになったコマンドが左詰めされないように修正した。</p>	JSMDXCAN

表10.1 プログラム修正事項（続き）

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
4 4	<p>HELP・メニュー画面において，“オプション不当”のメッセージが出力された場合，HELP・使用可能コマンド一覧画面に遷移すると“オプション不当”のメッセージが出力されたままの状態になる。</p> <p>以下のHELP・使用可能コマンド一覧画面が該当する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - HELP・使用可能コマンド一覧画面（対象レコード入力画面） - HELP・使用可能コマンド一覧画面（メンバレコード入力画面） - HELP・使用可能コマンド一覧画面（オーナレコード入力画面） <p>（対処） HELP・使用可能コマンド一覧画面にメッセージが残らないように修正した。</p>	JSMDS080
4 5	<p>HELP画面において，2 ページ目の画面でPF12キーを押下すると1 ページ目に遷移する。</p> <p>以下のHELP画面が該当する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - HELP・レコード名一覧画面（対象レコード入力画面） - HELP・レコード名一覧画面（メンバレコード入力画面） - HELP・レコード名一覧画面（オーナレコード入力画面） - HELP・使用可能コマンド一覧画面（データ更新画面） - HELP・使用可能コマンド一覧画面（メンバレコード内容表示画面） - HELP・使用可能コマンド一覧画面（オーナレコード内容表示画面） <p>（対処） PF1, PF2, PF4, PF5, PF6, PF10, PF11 およびPF12キーは無効となるように修正した。</p>	JSMDS080
4 6	<p>ADL-データセットメニュー画面またはDBSPの環境生成メニュー画面において，ボリューム通番またはUNITを左詰めで入力しない場合，環境セットアップのバッチジョブ(@JCL)のボリューム通し番号または装置名が空白となる。</p> <p>（対処） ボリューム通番またはUNITを左詰めで入力していない場合には，メッセージを出力するように修正した。</p>	JSMD0020 JSMD0030

11. 制限事項

このソフトウェアを使用する場合の主な制限事項を以下に示す。なお、下記以外の制限事項に関しては、適用マニュアルを参照されたい。 ◆【1】 2.3

表11.1 制限事項

制 限 事 項	備考（代行方法，その他）	解除予定
本ソフトウェアは使用する作業用データセット名の第一修飾子にユーザIDを使用しているため，同一ユーザIDで複数同時に使用すると割当てエラーなどが発生する可能性がある。	代行方法なし。	なし

FUJITSU